

平成19年度

ひょうごボランティア基金
助成事業報告書

ひょうごボランティアプラザ
(兵庫県社会福祉協議会)

平成20年12月

は し が き

ひょうごボランティアプラザでは、現在、11種類の助成メニューを実施している。このように多岐にわたる資金支援をしている助成団体はあまり例がないと思われるが、法人格を有するNPOが1300を越え、NPO法に定める17分野にわたり年間予算で100万円以下から1億円以上の大小さまざまな団体が活動しているので、個々のニーズに見合ったきめ細かな支援を実施するとなるとメニューの種類が増えるのは避けられない。

このメニューを1件あたりの助成額で区分すると、草の根的なボランティアグループを対象とする小口助成（1件3万円）、NPOの立ち上げやキャパシティビルディングを支援する中規模の助成（1件30万円まで）、行政との協働や中間支援活動を対象とする大口助成（1件100万～200万円）に大別できる。

ところで、ボランティア基金には、これまで助成の成果について1冊にまとめて報告する仕組みがなかった。最近まで、大口の助成は3年次にわたる行政・NPO協働助成だけであったが、協働の相手先である行政の対応が助成継続の決め手になっていたので、改めて広く社会的評価を求める必要がなかったのがその理由である。

また、プラザのミッションは、新しい公を担うボランティア組織の基盤強化にあるので、個別助成事業の成果を、事業終了後、すぐに求めるのは性急に過ぎるという考えもあった。しかし、これだけメニューの幅が広がると、広く県民の評価を求めることが不可欠であると思われる。

そこで2年前から、大口助成について、それぞれの団体に活動報告の提出を依頼して、1冊の報告書にまとめることにした。報告の具体的な内容についてはまだ工夫の余地が残っていると思われるので、忌憚のないご意見を聞かせていただければ幸いである。

平成20年12月

ひょうごボランティアプラザ
所長 小森 星児

目 次

I	ひょうごボランティア基金助成事業について・・・・・・・・・・	1
II	平成19年度ひょうごボランティア基金助成事業概要・・・・・・・・	2
III	平成19年度助成事業 助成金交付団体等一覧・・・・・・・・・・	3
IV	平成19年度助成事業報告	
1	チャレンジ事業助成	
	第2年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	第1年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2	インターン助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
3	行政・NPO協働事業助成（NPO提案型 第3年次）・・・・	29
4	中間支援活動助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
5	企業・NPO協働奨励事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
V	ひょうごボランティア基金 過去の助成金交付実績・・・・・・・・	51
	(平成14・15・16・17・18年度)	
VI	県民ボランティア活動助成エントリー受理 及び交付決定一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	57
	(平成19年度)	

ひょうごボランティア基金活動助成

当基金による活動助成制度は、21世紀の成熟社会の重要な担い手であるボランティアグループ・団体、NPO等が行う多岐にわたる幅広い分野のボランティア活動の「自立性」と「継続性」を高めることを基本として、活動基盤の強化（キャパシティ・ビルディング）をめざし、県民ボランティア活動の促進を図ることを目的としています。

< 5 つ の 特 徴 ・

- 1 助成総額が1億4千万円**
- 2 活動対象がNPO法の定める17分野**
- 3 活動段階に応じたメニュー設定**
- 4 申請(助成)団体にとって使い易い枠組み**
- 5 助成制度決定までのプロセスの共有**

「ひょうごボランティア基金」は、21世紀の成熟社会の重要な担い手であるボランティアグループ・団体、NPO等が行う福祉、環境、国際交流、芸術等幅広い分野の県民ボランティア活動の促進や、児童福祉施設入所児童及び交通遺児の激励など、地域福祉の向上を図ることを目的として、2002年4月に創設された基金です。

平成19年度 ひょうごボランティア基金助成事業概要

区分	目的	助成予算額 (執行額)	申請状況・採択率	
ボランティアグループ支援	県民ボランティア活動助成	福祉、環境創造、国際交流等NPO法17分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促す。 上限3万円(1/2助成) 〔エントリー期間：7月2日～9月7日〕	千円 90,000 (93,210)	エントリー数：3,312件 (交付実績 3,107件)
	ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成	地域のボランティア活動支援拠点とボランティアグループ・NPO法人等の連携・協働を支援し、地域課題の解決を図る。 1事業 30～90万円 〔支援拠点申請期間：6月1日～7月2日〕	4,500 (1,390)	(2年次分) 申請件数：2件 採択件数：2件 倍率：1倍 (1年次分) 申請件数：0件
	学生ボランティア活動助成	学生を対象とした入門教室、体験・交流事業、ボランティアセンターの設立準備に係る経費を支援し、学生ボランティア活動の理解と参加の促進を図る。 上限 10万円 〔申請期間：6月4日～7月17日〕	500 (250)	申請件数：4件 採択件数：4件 倍率：1倍
NPO法人等の基盤強化	立ち上げ支援助成	NPO法人等の立ち上げを支援し、NPO活動の促進を図る。 ① インキュベート整備 ② 公共スペース活用 ③ 事務所借り上げ 上限30万円(1/2助成) 〔申請期間：6月4日～7月31日〕	3,000 (2,328)	(1年次分) 申請件数：7件 採択件数：6件 倍率：1.2倍
	チャレンジ事業助成	地域課題の解決のための広域性の高い活動や 新たな活動の拡大、発展を図る。 ① 新規事業 上限100万円 ② 既存事業 上限50万円 〔申請期間：6月4日～7月31日〕	12,000 (9,500)	(1年次分) 申請件数：8件 採択件数：5件 倍率：1.6倍
	NPOパワーアップ助成	NPOの活動基盤を強化する。(①ITによる情報公開②定期機関紙の発行③普及啓発事業等) 1項目につき 5万円 〔申請期間：10月15日～20年1月31日〕	3,500 (1,650)	申請項目：38項目 採択項目：33項目
	インターン助成	団体が行う、国内外での先進事例、現状の調査研究等を支援する。 海外 上限30万円 国内 上限15万円 〔申請期間：2月1日～4月27日〕	1,000 (300)	申請件数：4件 採択件数：1件 倍率：4倍
行政・企業との協働促進	行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)	行政とNPOの協働推進のため、NPOの企画の事業化を支援する。 1年次(企画) 30万円 11件 〔申請期間：7月2日～8月31日〕 2年次(事業計画) 60万円 7件 3年次(事業実施) 100万円 6件	13,500 (8,980)	(1年次分) 申請件数：18件 採択件数：7件 倍率：2.6倍
	行政・NPO協働事業助成(行政提案型) ＜一般型＞	行政からの提案により、NPOとの協働事業を実施する。 1事業 上限30万円 〔NPO申請期間：6月25日～7月20日〕	1,500 (852)	申請件数：5件 採択件数：3件 倍率：1.7倍
	＜テーマ・対象特定型＞	団塊の世代を対象とした行政からの提案について、NPOとの協働により実施する。 1事業 上限50万円 〔NPO申請期間：5月1日～5月25日〕	3,000 (2,852)	申請件数：10件 採択件数：6件 倍率：1.7倍
	企業・NPO協働奨励事業助成	企業とNPOの協働を奨励する。 30～50万円(5件以内) 〔申請期間：9月3日～10月31日〕	1,500 (1,500)	申請件数：14件 採択件数：5件 倍率：2.8倍
中間支援	中間支援活動助成	ネットワーク構築、調査研究、講座等の開催、相談事業等を行おうとする中間支援活動のレベルアップを図る。 1団体 上限100万円 〔申請期間：6月4日～7月31日〕	6,000 (5,415)	申請件数：11件 採択件数：6件 倍率：1.8倍
合 計		140,000 (128,227)		

平成19年度助成事業 助成金交付団体等一覧

(単位：千円)

□ ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成
2年次(18年度採択)

助成団体名 (ボランティア活動支援拠点協働先)	助成事業名	助成額
1 エコマネー緑ヶ丘推進会 (三木市社会福祉協議会)	時代にあった地域における共助の仕組みづくり	900
2 特北播磨市民活動支援センター (小野市社会福祉協議会)	北播磨地域自然指導員育成事業	490
合計		1,390
平成19年度(第2年次) 申請件数 2件 採択件数 2件 倍率 1倍		

1年次(19年度採択)
申請件数 0件

□ 学生ボランティア活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1 国際交流・国際協力支援団体 CLUB GEORDIE	国際交流セミナー'07	50
2 神戸キャンドルナイト実行委員会	100万人のキャンドルナイト2007 in KOBE	100
3 神戸大学総合ボランティアセンター	学生ボランティアの推進と地域社会のニーズへの対応	50
4 FLゆうゆう	不登校や発達障害等の子ども支援活動	50
合計		250
申請件数 4件 採択件数 4件 倍率 1倍		

□ 立ち上げ支援助成

3年次(17年度採択 家賃助成)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特でかけ隊	事務所家賃助成	13
2 特さんびいす	事務所家賃助成	56
3 特福祉市民ネット・川西	事務所家賃助成	124
合計		193
平成17年度(第1年次) 申請件数 10件 採択件数 7件 倍率 1.4倍 うち2件採択を辞退 平成18年度(第2年次) 採択件数 4件 (17年度採択5件のうち1件は17年度中に事業完了) 平成19年度(第3年次) 採択件数 3件 (18年度採択4件のうち1件は18年度中に事業完了)		

2年次(18年採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特知恵の和	事務所家賃助成	162
2 特市民サポートセンター明石	事務所家賃助成	150
3 特姫路人権ネットワーク	事務所家賃助成	150
合計		462
平成18年度(第1年次) 申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1倍 (うち2件採択を辞退) 平成19年度(第2年次) 申請件数 3件 採択件数 3件 倍率 1倍		

1年次(19年採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特ピースヘルプ協会	事務所家賃助成	300
2 特まどか	事務所家賃助成	300
3 特いえしま	事務所家賃助成	300
4 特コミュニティ事業支援ネット	事務所家賃助成	300
5 特わだち	事務所家賃助成	175
6 特ウィズネイチャー	事務所家賃助成	298
合計		1,673
申請件数 7件 採択件数 6件 倍率 1.2倍		

□ チャレンジ事業助成

2年次(18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特サポートセンター木立	障がい者が働く「高齢者向け軽食・喫茶店」の経営	1,000
2 特生涯学習サポート兵庫	子どもの発達よろず相談屋	1,000
3 特さわやか北摂	地域緊急課題/地域の閉じこもりがちな高齢者の外出支援と社会参加を促す事業	1,000
4 特ケアット	障害者の地域就労を支援する「心と身体のケアマネジメント」事業	1,000
5 特ブルービーンズショア	アートに出会う移動教室「ブルービーンズスクール」	500
6 特陽だまり	高齢者食事サービス事業	500
合計		5,000
平成18年度(第1年次) 申請件数 19件 採択件数 6件 倍率 3.2倍 平成19年度(第2年次) 申請件数 6件 採択件数 6件 倍率 1倍		

1年次(19年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 パソコン活用隊	地域貢献活動団体向けパソコン活用支援事業	1,000
2 特ふおーらいふ	不登校・ひきこもりの青少年等の「食育」から始まる社会参加プログラム	1,000
3 特さんびいす	在宅ワークを柱とした、母親達へのリ・チャレンジ支援事業	1,000
4 特つどい場さくらちゃん	認知症介護者のリフレッシュと介護予防・介護学習及び認知症高齢者家庭への見守り派遣・外出支援	500
5 特男女共同参画ネット尼崎	尼崎地域子育て支援キーステーション事業	1,000
合計		4,500
平成19年度(第1年次) 申請件数 8件 採択件数 5件 倍率 1.6倍		

□ インターン助成

助成者の所属団体 役職	受入先	助成額
1 特たかとりコミュニティセンター事務局員	リージェント・パーク・フォーカス・ユース・メディア・アート・センター (カナダ)	300
申請件数 4件 採択件数 1件 倍率 4倍		

□ 行政・NPO協働事業助成（NPO提案型）

3年次（16、17年度採択）

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特宝塚NPOセンター	公共交通へのモデルシフトを通じた環境配慮生活啓発事業	1,000
2 特シンフォニー	阪神なごき環境「人・自然」交流復活事業	436
3 きららの森	猪名川の自然を食べる…自然教育プロジェクト	1,000
4 特コムサロン21（16年度採択）	ひょうごアダプト中間機関	1,000
合計		3,436

平成17年度（第1年次） 申請件数 14件 採択件数 9件 倍率 1.6倍
 平成18年度（第2年次） 採択件数 5件 倍率 2.8倍
 平成19年度（第3年次） 採択件数 3件 倍率 4.7倍（16年度採択団体を除く）
 （1件採択を次年度に持ち越し）

2年次（18年度採択）

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特いちじま丹波太郎	学校給食への地元産農産物の供給と食育の推進	500
2 ウィメンズネット・こうべ	デートDV防止の出前講座開催事業	600
3 特上野丘さつき家族会	神戸市北区淡河町に「ゾーン・タクシーの運行」を目指して！	600
4 特生涯学習サポート兵庫	不登校・ひきこもり対象体験活動セミナー	600
5 特発達障害児療育センターしらゆり	保育所における“発達障害児”への指導・療育を支援する事業	600
6 特兵庫県技術士会	地域産業振興のための人材育成を目標とした中小企業のデータベース構築事業	600
合計		3,500

平成18年度（第1年次） 申請件数 17 採択件数 7件 倍率 2.4倍
 平成19年度（第2年次） 採択件数 6件 倍率 2.8倍

1年次（19年度採択）

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特ひょうご地域防災サポート隊	地域コミュニティの防災力向上に関する事業	300
2 特姫路市介護サービス第三者評価機構	姫路市・介護サービス改善協議会の設立と運営	300
3 特びっぴ	NPO、認可外保育施設、行政の連携による発達支援ネットワーク（仮称）と地域における親子支援体制づくり事業	300
4 特ブレーンヒューマニティー	地域課題解決のための学生による政策提言事業「ひょうご未来塾」	244
5 特宝塚NPOセンター	兵庫県・わかもの就労支援ネットワーク構築事業	300
6 特市民事務局かわにし	～NPOと行政で取り組む～川西市におけるNPO・市民活動団体の情報収集と発信のシステムづくり	300
7 特ジャパンフルーツオーケストラソサイエティ	「たのしい たのしい うたのまち」プロジェクト	300
合計		2,044

申請件数 18 採択件数 7件 倍率 2.6倍

□ 行政・NPO協働事業助成（行政提案型）

助成団体名 （行政協働先）	助成事業名 （団体提案事業名）	助成額
1 特阪神高齢者・障害者支援ネットワーク （健康生活部 生活企画局 健康福祉政策課）	在宅ターミナルケアネットワーク形成事業	252
2 特ソーシャル・デザイン・ファンド （県土整備部 県土企画局 技術企画課）	「美しい県土づくり」パートナー制度 検討及び創設支援事業 ～県民主体の「ひょうごアダプト」の推進～	300
3 特ほっとネット373 （西播磨県民局 企画調整部 地域づくり課）	体験・交流型施設ガイドブックによる県際地域活性化事業	300
合計		852

申請件数 5件 採択件数 3件 倍率 1.7倍
 （行政からの提案件数 3件 採択件数 3件 倍率 1倍）

□ 行政・NPO協働事業助成（行政提案型 特別事業）

助成団体名	助成事業名 （行政協働先）	助成額
1 特しゃらく	団塊世代等地域づくり活動きっかけづくり支援事業 （県民政策部地域協働局参画協働課）	500
2 特明石NPOセンター		500
3 特シンフォニー		500
4 特ASUネット		500
5 特阪神高齢者・障害者支援ネットワーク		402
6 特場とつながりの研究センター		450
合計		2,852

申請件数 10件 採択件数 6件 倍率 1.7倍

□ 企業・NPO協働奨励事業

奨励団体名	奨励事業名	奨励額
1 特環境21の会	太陽光発電・屋上緑化・炭の普及啓発	300
2 特さんびいす	働く母親への就労支援 地域のリソースを活用して企業内保育所をつくる事業	300
3 特市民事務局かわにし	「市場」（マーケット）で「勝負！」する商品づくりプロジェクト～福祉系作業所とアート専門学校とのコラボレーション～	300
4 特女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ	民間シェルターへの物品提供事業	300
5 特たかとりコミュニティセンター	多文化な子どもたちによる表現活動「Re:C」	300
合計		1,500

申請件数 14件 採択件数 5件 倍率 2.8倍

□ 中間支援活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特宝塚NPOセンター	「中間支援としての支援のあり方実態調査」事業	1,000
2 特コミュニティサポートセンター神戸	指定管理者制度の実態調査～兵庫から発信する新たなモデル～	1,000
3 特明石NPOセンター	東播磨の支援機能整備へ向けた～市民団体掘り起こし事業～	1,000
4 特コムサロン21	NPO法人の労務管理に関する研究	1,000
5 兵庫県日本語ボランティアネットワーク	兵庫県内の地域日本語教室の連携のためのガイドブック	800
6 ひょうごんテック	NPOの団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験	615
合計		5,415

申請件数 11件 採択件数 6件 倍率 1.8倍

採択件数	： 67件	33,367
------	-------	--------

障がい者が働く「高齢者向け軽食・喫茶店」の経営

～軽食・喫茶の木立～

特定非営利活動法人 サポートセンター木立

1 団体概要

任意団体として、平成16年4月加古川市に於いて4番目の精神障害者小規模作業所を開所し、障がい者の居場所づくりと社会参画を目標として、高齢者を対象に、手作り弁当の調理・宅配を行ってきた。団体等からまとまった注文もあり、活動を通じて地域からの理解を得ることも出来、障がいをもちながらも人の為に貢献できる喜びを持ち、就労の意欲が増している。平成18年3月NPO法人の認証を受けた。同年10月に第2作業所としてJR加古川駅の近くにある寺家町商店街に「軽食・喫茶の木立」をオープンし地域の皆様に利用していただき、商店街連合会、加古川観光協会にも垣根なく受け容れていただき参加してきました。

2 助成事業の概要

平成18年10月に障害者小規模作業所として高齢者向け「軽食・喫茶の木立」をオープンしました。

障がい者と高齢者の交流を通してノーマライゼーションのまちづくりを目指して出発しました。

障がい者の方々が指導員の支援を受けながら、毎月イベント・壁面展示等を開催し対話と交流の場として地域に貢献できたと自負しています。しかし商店街の急速な過疎化と、高齢者の方は季節の変化で外出を控えられるため、来店することが困難なことが解りました。

このままでは赤字経営になることが避けられないと考え将来予定していた「手作り弁当の宅配」を始めることで、赤字を回避したいと計画を立てました。

平成19年11月から手作り弁当の調理・宅配を開始、それまで障害者の方々は作業がなく手持ち無沙汰にしていたが、調理・盛りつけ・配達と作業量が増え、いきいきと作業に取り組んでいます。

3 助成事業のアピールポイント

良かったこと

☆ 厨房の拡大工事により、弁当の製造と従来の軽食の調理を同時に取り組めるようになった。

☆ 作業場が増えた事で、弁当の大口の注文にも対応出来る様に作業の幅が出来た。

☆ 通所者が12名から始まったが作業量が増えたことで現在18名に増加。

☆ 昨年と同様で、温かい食事やイベントの開催などで高齢者を誘致し、障がい者の働く場と高齢者の憩いの場とのマッチングを図りノーマライゼーションの交流の場をつくる事が出来た。



苦勞したこと

- ☆ 食の安全が問われる現在細心の注意を払い、信頼される食の提供に努めてきた。
- ☆ ガソリン代を始め物価の高騰で仕入れに苦勞した。

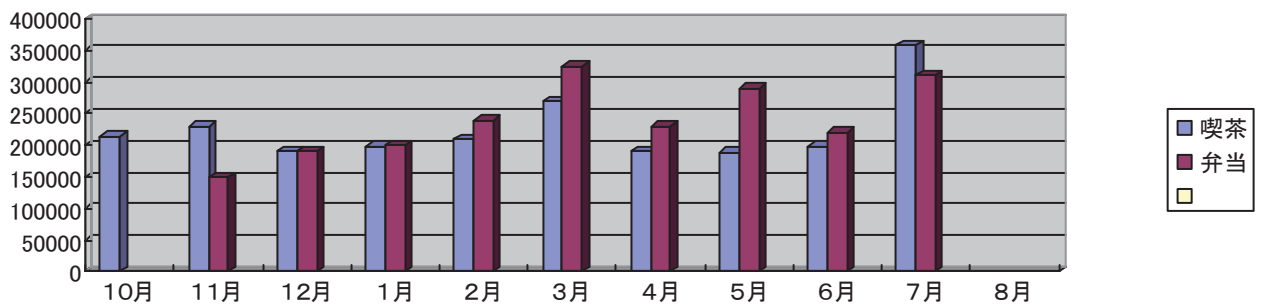
4 助成金の活用状況

1年目は開店準備に予想以上の資金が必要になり、特に店舗改装費・備品をはじめ什器・消耗品に多額の費用がかかりました。当助成金で、店舗40席のテーブル・椅子の購入資金として、又、通信費・材料費・イベント費用・ 障害者の工賃等の一部に使用いたしました。

2年次は、弁当の調理のため厨房の拡大工事、大型冷蔵庫の購入に使用しました。

19年11月から始めた弁当の販売が軌道に乗り、総売上は倍増した。広い範囲で対象経費が認められている当助成金に助けていただきました。沢山の機関と多くの方に支援をいただき、感謝しております。

喫茶とお弁当の比率



5 今後の事業計画

- ・ 高齢化社会において、高齢者の憩いの場として更に多くの方に知っていただき温かい食事の提供をし、高齢者の食事の改善をすることで、地域に貢献したい。
- ・ 地域の活性化を目的に、地域のコミュニティー広場として毎月イベントを開催し、特に高齢者、障がい者の交流を通し障がい者に対する偏見を積極的になくしていきたい。
- ・ 障がい者の社会参画と自立をめざし、通所者の工賃アップのため工夫を重ね弁当販売に力を入れていきたい。

代表者 理事長 難波 勉

〒675-0053 加古川市米田町船頭 514 番地 24

TEL・FAX 079-431-3288

E-mail nrd25362@nifty.com

子どもの発達よろず相談屋

特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫

1 団体概要

■「あそべない子どもをあそべる子どもへ あそべない大人をあそべる大人へ」をテーマに、2003年3月設立、2003年4月にNPO法人格を所得。

体験活動やワークショップの専門家たちが、生涯学習や子育て、地域福祉活動をあらゆる形でサポートしている。兵庫県縦断プログラム「チャレンジウォーク」や無人島キャンプ「チャレンジアイランド」などといった小・中学生を対象とした事業も実施。

■事業内容

1. 生涯学習に関する青少年指導者の研修、また次世代の青少年指導者の養成に関する事業
2. 地域・公共団体等の主催する生涯学習行事の運営を支援する事業
3. 機関紙発行また、ホームページ等による生涯学習普及開発事業

2 助成事業の概要

■各月2回のうち1回は、発達に不安をもつ親と小学生を対象に、大学教授であり社会福祉士でもある藤本次郎氏を講師として招き相談会を行った。当初は、1回10組程度の参加を見込んでいたが、個別に対応を要する相談なども増加したため、一人ひとり時間をかけて対応を行える人数で実施した。個々の発達の悩みに応じ、的確なアドバイスを行ったり、次のルートへの紹介を行うことができた。また、障がい者や障がい児を支援する人を対象とした勉強会を実施し、普段抱えている疑問や悩みを共有・解決する場を設けた。



■未就学児親子の相談事業では、近年クローズアップされる子どものしつけや健康、食育などについて、大学教授である勝木洋子氏をはじめとし、保育士・栄養士・保健師・玩具専門店オーナー・幼児教室指導員と、多岐にわたる専門の講師による相談会を実施した。リトミック・体操・おもちゃあそび・パネルシアターなどのあそびのプログラムと、それとリンクしたテーマの相談会が実現し、当団体スタッフのもつあそびの技術と、各講師の専門性を十分に生かした事業となった。子育ての不安や悩みを親同士で共感する様子、アドバイザーの助言に安心したり、気持ちを改める様子が見られた。

3 助成事業のアピールポイント

■いずれの事業も「親と子」のつながりを深めるきっかけとなっただけではなく、回を重ねる毎に「親と親」のつながりも多く生まれた。また、リピーターの利用者が過半数を占めており、毎月のイベントが居場所となっていたと考えられる。「いつも

の場所、いつもの時間、いつもの顔ぶれ」という3つの要素は、特に発達障がいをもつ子どもに安心感を与えた。

- 当団体スタッフの専門分野以外の講師を招くことができ、スタッフの知識やスキルを高められただけではなく、子育ての悩みや不安といった声を生で聞く機会を得、既存の出張指導や体験活動事業の際に生かすことができた。また、「あそび」という当団体のプログラムの中にはたくさんの可能性があり、「あそび」を通して様々なことを感じ、伝えていくことの大切さや「受け身」なプログラムではなく、それぞれの持つ課題について共に考え、一緒につくっていくことの重要性を再認識できたのも大きな成果といえると思う。



- 教育機関等との連携をうまく図っていくことは今後の課題として残ったが、そこにつながるルートを当事業を通して得ることができた。

4 助成金の活用状況

- 助成金は、相談会講師への謝礼、また相談会開催にあたっての実費（材料費など）、プログラム企画・コーディネートのための人件費などに用いた。

5 今後の事業計画

- 事業を進めていく中で、特に乳幼児をもつ親が、集う場や相談の場を求めていることを痛感した。さらに、子どもの発達についての悩みや不安といったものも、低年齢化しているように思えた。このような人々が集う場として、より敷居を低くした形で新年度、小学生までの親子を対象とした「あそびの展覧会」を月1回開催している。この事業を基盤とし、活動の範囲と対象・プログラムの幅を広げ、より参加をしやすい形態をとっていきたいと考える。広報については、これまで通りチラシ配布と地元タウン誌紙面での情報を掲載していただいている。
- 保護者のニーズの高い「障がい児キャンプ」については、勉強会に参加した人（学生リーダー等）を中心として障がい児キャンプチームを組織し、ディキャンプや1泊2日のキャンプを企画・運営したり、他団体から委託を受けて実施する。そのために必要なプログラムの進め方や参加者の対応について検討する機会を設け、藤本氏をはじめ、関係講師にもご参加いただく予定である。

特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫

理事長 山崎 清治

〒672-8088 兵庫県姫路市飾磨区英賀西町 2-15-2

TEL : 079-230-0661 FAX : 079-230-0662

E-mail : shosapo@iwish.jp URL : <http://shosapo.iwish.jp>

地域緊急課題/地域の閉じこもりがちな高齢者の外出支援と社会参加を促す事業

特定非営利活動法人 さわやか北摂

1 団体概要

高齢者のたすけあい活動の草分けとして1995年に“さわやかサービス北摂”を設立。NPO法人化の後、高齢化率30%のグリーンハイツ地区での“高齢者の安心拠点”を目指し、2001年からは訪問介護事業を、2002年には誰でも立ち寄れるミニデイサービスを、2003年から2004年にかけて、障害児者居宅介護事業を開設。昨年2006年4月からは、居宅介護支援事業と介護予防事業（訪問介護及び通所介護）を開始するに至っております。

さわやか北摂では、“困った時はお互いさま”の精神で、たすけあい活動で公的サービスの不足分を補いながら、高齢者や障害児者の方に包括的な支援サービスをご提供しております。

- ・ 1995年 7月 さわやかサービス北摂 を設立
- ・ 2000年 8月 1日 特定非営利活動法人 さわやか北摂 を設立
- ・ 2001年 3月 1日 介護保険・訪問介護事業 を開始
- ・ 2002年 8月 1日 介護保険・通所介護事業 を開始
- ・ 2002年 5月 1日 支援費・身体障害者居宅介護事業 を開始
- ・ 2003年 11月 1日 支援費・児童（障害児）居宅介護事業 を開始
- ・ 2004年 8月 1日 支援費・知的障害者居宅介護事業 を開始
- ・ 2006年 4月 1日 介護保険・居宅介護支援事業 を開始
- ・ 2006年 4月 1日 介護保険・介護予防事業（訪問介護と通所介護）を開始

2 助成事業の概要

〈実施時期〉 平成19年4月から平成20年3月

〈実施場所〉 さわやか北摂もしくは自治会館

- 〈実施内容〉
- ① 1年目以上に地域コミュニティとの連携と協働を推進
 - ② 閉じこもりがちな高齢者を外に連れ出す新たな手法の検討、探索
 - ③ 新しいチラシを作成し、地区別にポスティング
 - ④ 希望される方へお弁当を配達
 - ⑤ デイサービスに体験見学にきていただき、レクリエーションや昼食を提供
 - ⑥ 調理量が増えたことから、デイサービス調理室を改修・備品購入（防炎垂れ壁設置・換気フード取替・スタッキングテーブルと冷凍庫購入）

3 助成事業のアピールポイント・よかったこと・苦労したこと

- ・ 本事業は、地域コミュニティとの連携と協働が重要な要素となりますが、打合せを重ねるにしがたい、多くの団体の理解と協力が得られ、初年度よりスムーズに事業を進めることができました。その結果、外出へのきっかけづくりとしたい「配食」については、最終的に16人（初年度6人）の方が希望され、年度合計で605食（初年度250食）の実績となりました。2年が経過し、本事業が地域に浸透してきていることをあらためて実感しております。
- ・ 当地区の閉じこもり高齢者数は、約500人（高齢者全体の約10%）と推定されますが、当初の目標では、平成20年3月末までに約100人（内重度の方50人）を外に連れ出す計画でしたが、実績で95人（内重度の方6人）の結果となりました。全体の目標値は、ほぼクリアすることができましたが、重度の方の連れ出しについては、目標値を大幅に下回りました。即効で成果が得られるような簡単な取り組みではないため、今後とも地道な活動を続けるしかないと思っております。また、打合せを重ねる中で、新たな連れ出し手法の提案も出てくるようになり、連携・協働先の皆さんが真剣に取り組んでいただいているあらわれであり、今後も充実した打合せとなるように注力していきたいと思っております。

4 助成金の活用状況

事業支出内容		実績金額
直接経費	外注加工費	調理室の防災垂れ壁設置工事及び換気フード取替工事 180,000
	買入部品費	冷凍庫 1 台購入 31,694
		スタッキングテーブル 2 台購入 38,400
	人件費	事業担当者、調理員、配食員、他 1,812,850
	食材費	配食弁当 242,000
デイサービスお試し昼食分 54,400		
間接経費	一般管理費	広告宣伝費、通信費、他 124,652
■ 事業支出合計		2,483,996
□ チャレンジ事業助成金		1,000,000
□ サービス報酬（配食弁当代・デイ昼食代・デイ送迎代）		566,200
□ 自己資金		917,796

5 今後の事業計画

全体の目標値は、ほぼクリアすることができましたが、重度の方の連れ出しについては、目標値を大幅に下回りました。チラシ作戦以外にも、老人会、民生委員、自治会の各クラブの休眠会員への呼びかけも実施しましたが、重度の方は、配食の呼びかけにも、かたくなにに応じてもらえないことから、次年度には、個別に担当を決め、同じ担当者が定期的に訪問し安否確認から始めていこうと思っています。併せて、提案のあった「地域の居場所づくり」についても、積極的に推進していく予定です。〈閉じこもり予防〉として、軽度のうちに呼びかけることで、人との交流や外出の楽しみを見つけていただきたいと思います。平成20年4月から3年目となりますが、地域コミュニティとさらなる連携、協働を図り、打合せを重ね、新たな提案による新たな手法を試行錯誤しながら、助成金をいただいた本事業が毎年進化していけるよう、今後も注力してまいります。

〈平成20年度施策〉

- ① 〈閉じこもり予防〉として「地域の居場所づくり」を推進
- ② 重度の閉じこもりの方には、個別に担当を決め、同じ担当者が定期的に訪問し安否確認から取り組む
- ③ チラシ内容の見直し（チラシ第3弾の検討、作成）とチラシ作戦の継続
- ④ 閉じこもり高齢者に対する新たな連れ出し手法の検討

防災垂れ壁設置



換気フード取替



スタッキングテーブルと冷凍庫購入



(団体連絡先)

〒666-0116 兵庫県川西市水明台1丁目3番地の2
 特定非営利活動法人 さわやか北摂
 代表理事 久恒 千里
 TEL 072-792-3532

障害者の地域就労を支援する“心と身体のケアマネジメント”事業

特定非営利活動法人 ケアット

前年度に引き続き「落語会」や「音楽の会」などをおして、障がい者を知って、理解していただく機会づくりを重ねてまいりました。今年度は地域を集約してより身近な地域福祉センターでの活動となりました。3月3日に行いました落語と講演会「心と身体のリフレッシュ」では、東灘区在住の露の団六師匠におこしいただきました。講演会ではダウン症のお兄様との幼少期からの関りをお話くださり「障害を持つということは誰にでもあることです」と笑いを織り交ぜながらお話してくださいました。当日は小雨の降る中41名の方に御参加いただき楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

1 「音楽の会」では幼少期の環境が、人とのコミュニケーションをはかるうえでとても大切になるのではないかと、幼児期の発達に遅れのあるこども達のための「音楽療法と運動の会」を開催しました。当初、地域福祉センターで活動しておりましたが、有料のため継続が困難であったため、現在は魚崎小学校をお借りして、月に1回、第二日曜日に継続しておこなっております。



当初、地域福祉センターで活動しておりましたが、有料のため継続が困難であったため、現在は魚崎小学校をお借りして、月に1回、第二日曜日に継続しておこなっております。

2 ケアットから「血液型12星座占い」点字版を出版

いたしました。制作には点字入力を学んだ視覚障害者とともに音訳ボランティアさんのご協力をいただき完成度



の高いものに仕上がりました。点字毎日新聞にて取り上げていただいたおかげで、北海道から九州までの広い範囲で点字ユーザー様からのご注文をいただき、喜んでいただくことができました。たくさんの市町村で日常生活用具の対象となっているため、価格差保障を受けることが可能になり、単価 3500 円の本を、自己負担 350 円でご購入いただくことが可能になっております。



3 現在、兵庫セルプを通して、兵庫県のアンケート調査や案内文の点字印刷の発注をいただき、印刷に関する視覚障害者が意欲的に仕事に取り掛かっております。

4 うはらホールにて、天然石を使用したアクセサリー教室を開催いたしました。当日は精神の障がいのあるかた、地域住民など7名にご参加をいただきました。細かい作業に悪戦苦闘しながらも、サポートのスタッフの手を借りながら作成していきます。自分で作ったアクセサリーということで満足しておられました。



天然石のブレスレットにつきましては、ケアットのホームページでの販売を行っておりましたが、一般に値段の安いものが出回っているためか、売り上げが伸びず残念ながら、現在はホームページでの販売は休止中です。クオリティーの高いものを提供し、障害者の就労につなげていきたいと考えながら、在庫を抱え今後の販売戦略を思案しております。



特定非営利活動法人 ケアット 岡本 芳江

神戸市東灘区魚崎北町 2-6-14 電話 078-453-3624 F A X 078-453-3634

アートに出会う移動教室『ブルービーンズスクール』

特定非営利活動法人 ブルービーンズショア

1 団体概要・事業の経緯

1982年7月設立 2004年3月NPO法人認証

<活動内容>

「感情を育てる」ことを理念とし、小・中学生を対象とした教育キャンプを行なう。

- ・夏は小豆島の海辺にて夏期限定キャンプ場設営・維持・運営。
- ・その他本州でも年間を通して季節ごとに春キャンプ・クリスマスキャンプやワークショップなど。

各プログラムの企画・運営は、キャンプディレクターの佐島弘理氏の指導の下、ボランティアの大学生リーダーが中心となって進める。アートワークショップは2005年度より、教育大学や芸術大学に在学する学生を中心に始まったプログラムである。

2 助成事業の概要

昨年度に引き続き、当法人の会員と、地域の子どもたちを対象に、「こそあどアート」と名付けシリーズ化したアートワークショップを3回行なった。

<第4回こそあどアート「みてみてつくってアーティスト」>

日時：2007年7月8日

場所：兵庫県立美術館

参加者：36名（内、新規会員15名）

概要：当法人と兵庫県立美術館との共催という形で行った。

「視覚以外の感覚(触覚、聴覚)」をテーマに、鑑賞及び

制作プログラムを実施した。午前は館主催のコレクシ

ョン展小企画「手ヂカラ目ヂカラ心のチカラ」といった、触覚を使っての鑑賞を体験。午後は館内アトリエにて制作。様々な音をイメージの源にし、それを粘土で工夫して表現した。



<第5回こそあどアート「はれときどき何色？～色イロイロ大発見～」>

日時：2007年11月18日

場所：兵庫県立美術館

参加者：32名（内、新規会員13名）

概要：鑑賞は行わず、制作プログラムに焦点を絞った。テーマは

「色」。絵の具を使って、自分だけの「空」と「雲」を制作。描く道具は手。

作品完成後はアトリエ上空に「空」を吊るし、床の上に寝転がって見上げる形で鑑賞。両手に「雲」を持って「空」の手前で動かしてみる、友達



<第6回こそあどアート「色の世界を旅しよう～色イロイロ大冒険～」>

日時：2007年3月15日

場所：兵庫県立美術館

参加者：22名（内、新規会員3名）

概要：「色」をテーマとした制作プログラム第2弾。「あったかい色」や「つめたい色」など、感覚的に色を感じることに重点を置いた。家から持参したチラシから色を見つけ、その部分をちぎりとり、黒画用紙に糊で貼る。それぞれが想像する「あったかいところ」や「つめたいところ」を自由に表現した。



3 助成事業のアピールポイント

<開かれた美術館へ>

助成事業期間における国立国際美術館、兵庫県立美術館といった公共の施設でのワークショップ開催、またその内容の充実に伴い、市民に開かれた美術館に向けて、民間の団体としての貢献を実現したと言える。

<地域に根ざしたアート教育を>

今年度は、継続した兵庫県立美術館での開催に伴い、着実に地域の子どもたちへと対象を広げた。また、平成20年度は、兵庫県川西市黒川地区での自然を利用したプログラムを試み、地域活性化にもつなげたいと考えている。

4 助成金の活用状況

- ・ワークショップ開催にあたって【材料費、会場費】
- ・大学生リーダーの企画会議において【交通費、会場費】

5 助成事業による成果と今後の事業計画

主に以下の三観点より、当事業を自立した活動として存続させるための基盤を整えることができ、今後、団体の本プログラムとして継続していく予定である。

(1) 実践の場の確保と定着

本年度は、兵庫県立美術館を継続して利用することで、企画内容のレベルを着実に上げると共に、地域の新聞を利用した広報活動の成果も伴い、主な対象を当法人の会員から地域の子どもたちに広げることができた。これにより、事業継続に向けて実践の場を確保し、定着させていく見通しを持つことができた。

(2) 人材の特化・育成

11月より、当法人ボランティアリーダー約50名の中から、22名の今後当事業において継続してトレーニング・実践経験を積んでいく人材を特化し、リーダーの能力向上を図る体制を整えた。当事業の自主運営としてのあり方を確立することができた。

(3) 資金の確保

2年間に亘って本事業を続けることで、事業の定着や広報活動の成果も伴い、年間3回の内2回は参加希望者が定員30名を超えた。また、会員の中でもアートワークショップに継続して参加する人が現れたことで、十分とはいえないが、資金の安定した獲得につながってきている。

代表 佐島由紀子	〒666-0112	兵庫県川西市大和西5丁目24-8
TEL・FAX：072-794-8787	E-mail：	npo-bbs@jttk.zaq.ne.jp
URL： http://homepage3.nifty.com/blue-beans-shore/		

高齢者食事サービス事業

特定非営利活動法人 陽だまり

1、団体概要

「障害のある人もない人も共に働く事業所」という位置づけで平成11年1月に設立されました。今年で10年目を迎えます。平成18年3月にNPO法人として新たなスタートを切りました。共同事業所の運営事業・福祉コミュニティ事業・作業所運営事業・障害者福祉に関する啓発及び地域との交流事業を行い障害者が社会づくりに寄与することを目的としています。共同事業所では、お昼の日替わり弁当の宅配・喫茶・高齢者食事サービス事業に取り組んでいます。作業所では、お惣菜販売・軽作業・クッキー作り・パソコン訓練などを行っています。

2、助成事業の概要

共同事業所運営事業の中で昼食の弁当宅配をしておりました。事業の拡大や地域からの要望もあり「高齢者食事サービス事業」をスタートさせ2年目になります。1年目の助成金はおもに人件費に使わせていただきました。

養護学校からの卒業生の1名を迎え入れ・夕食の配達者の確保・チラシ作成と事業を進めて行くうえで助成金をいただけたのはとても助かりました。目標数は達成できませんでした。各関係施設への事業周知や事業の定着・障害者を含め仕事の流れが作る事が出来ました。

その後2年目の助成金を受け養護学校卒業生1名の仲間が増えました。事業スタート時は食事サービス回数が週4回だったのですが、2年目には、週6回まで増やすことが出来ました。それに合わせチラシもより見やすく作り変えました。この事業に取り組んでいる時期に「障害者自立支援法」の施行があり、小規模作業所等から新事業移行が実施され、私どもの団体も移行を迫られました。そこで、新しく作業所を開所することになり、各作業所との連絡や情報発の必要性から、障害者スタッフのパソコン訓練の場をもうけることになり、講師を招き少人数での指導を受けました。



3、助成金事業アピールポイント

*高齢者食事サービス事業では、栄養計算された家庭の味を1個から配達する。

*手づくりなので飽きのこない味であり、高齢者にとって1日のうち1食でもバランスのとれた食事をとることはとても大切であり、体調管理にも必要なことです。

*高齢者に関する事業に障害者が関わり、弁当配達時には、安否確認を実施している事例は、篠山地区では他に例がありません。

*新たに立ち上げた、作業所では障害者のスキルアップにつながるよう I T 講習を行いチラシ作成・報告書作成へと繋がっていきました。



4、助成金の活用状況

18年度・・スタッフの養成・障害者スタッフ増員のための費用
チラシ作成・

19年度・・障害者スタッフ増員のための費用・新作業所開設費用

I T 関係準備費用 (パソコン・プリンター・環境整)・チラシ作成

18年度は弁当に直接関わる事への活用が多かったのですが、19年度は販路に関わる準備に活用しました。それにより直接弁当作りに携われなかった障害者にとっても作業の幅がひろがり、とても喜んでいきます。



5、今後の事業展開

受益人口が増加する一方なので、事業の継続には問題は少ない。篠山市社会福祉協議会が関わる「配食サービス事業」に10月より障害者事業所が参入する事となり、この2年の高齢者食事サービス事業で得た知識と経験を生かしチャレンジしていきたい。

障害者自立支援法の施行に伴い障害者10人の確保しなければならない。このために市街地中心商店街に作業所をオープンしました。今後、ホームページの開設やチラシ・献立入力など I T を生かした作業も出来るよう障害者のスキルの向上にも力を入れていく必要がある。

特定非営利活動法人 陽だまり 理事長 森本 長壽

〒669-2203 兵庫県篠山市吹新117-4

TEL・fax 079-594-4112

hidamari-genki@zeus.eonet.ne.jp

地域貢献活動団体向けパソコン活用支援事業

パソコン活用隊

1. 団体概要

任意団体として2007年1月から地域貢献活動団体向けのIT支援を開始。前職がIT業界に勤めていた若いメンバー3名（平均年齢29歳）を常勤スタッフとし、地域貢献活動団体が抱えている人材不足・資金不足の問題にITを使った問題解決を目指す。宝塚NPOセンターをはじめ、市民事務局かわにし、場とつながりの研究センターの中間支援と連携をし、事務局作業の軽減を図るツールの開発・提供や、県への報告書や助成金申請書に必要なパソコンの基礎技術向上を目指した講座を開催。

2. 助成事業の概要

中間支援組織である宝塚NPOセンターとの連携と、マイクロソフトからのCSR活動をもとに、下記のICTサービスを実施。

(1) 地域貢献活動団体向け、経費削減ツールの提供・導入支援

(ア) 情報発信のIT活用による経費削減

Word・Excel・Outlook Expressで完結できる会員管理・E-mail情報発信・宛名ラベル出力が出来るツールの開発・提供。



平成19年9月～平成20年3月末までに14団体に対してツールの提供・導入支援を実施。

導入団体からの要望を経て現在ver3.1まで機能追加されている。

(2) 地域貢献活動団体向け、パソコン利用による業務支援講習事業

(イ) 顧客管理、情報発信活用講座

① 開催数：4回 参加者数：37名

(ウ) 助成金・報告書作成に使えるパソコン実務パワーアップ講座～基礎編～

① 開催数：7回 参加者数：35名

(エ) 助成金・報告書作成に使えるパソコン実務パワーアップ講座～応用編～

① 開催数：5団体 参加者数：29名

(オ) 個別無料講習会

① 開催数：5回 参加者数：7名

3. 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

(ア) アピールポイント

当団体が開発・提供している経費削減ツールは実際に公益活動団体と議論し合い、現場の生の声を開発に反映させて開発・提供させて頂いており、機能追加する場合も同様です。開発自体も外注はしていない為、使用される団体のニーズに合わせて当団体で開発・カスタマイズ作業が可能です。

今回の助成事業で宛名ラベルの出力機能を追加した事により、多くの団体から広報の作業がすごく楽になったという声を頂いております。

既存のソフトも良いものたくさんありますが、使いこなすまでに時間が掛かってしまい、途中で挫折してしまう事も多いです。当団体では、ツールの導入支援も行っており、その際にツールの使い方の指導もしています。パソコンが苦手な方でも簡単に時間を掛けずに団体の情報発信が可能です。

(イ) 良かったこと

ツール導入作業や、講座を通して多くの NPO 団体をはじめ公益活動団体と接する事が出来ました。活動の歴史が浅い当団体にとって、当事業を通してたくさんの公益活動団体とのネットワークが出来たのは大変良かったです。

さらに、HP 作成やインターネット接続支援、データバックアップ作業など、その他作業を依頼して頂けるようになり、より一層公益活動団体の現状を知る事が出来ました。その情報やネットワークを今後の活動の糧にし、新たなツールの開発や講座内容のサービスの充実に繋げていきたいと思っております。

(ウ) 苦労したこと

講座参加者を集めることです。パソコンを使う作業というのは事務作業が多く、主事業に直接関係がないので、パソコン技術は必要と感じながらも、なかなか足を運んで貰うのが難しく苦労しました。

4. 助成金の活用状況

- ① 経費削減ツールの開発費
- ② 講座・経費削減ツールの営業費・交通費・広告宣伝費

5. 今後に向けて

経費削減ツールの機能改善と新たなニーズに応える為の機能追加を行います。より一層、公益活動団体の情報発信が簡単に時間を掛けずに出来るよう継続的に支援していきます。



代表者 細谷 崇

〒665-0022

兵庫県宝塚市野上1-2-2 若葉荘 207号室

TEL : 0797-77-6006 FAX : 0797-77-6006

活動 Blog : <http://www.hnpo.comsapo.net/pcdiary/>

不登校・ひきこもりの青少年等の「食育」から始まる社会参加プログラム

特定非営利活動法人 ふぉーらいふ

1. 団体概要

1997年10月、不登校・ひきこもりの子どもたちの「居場所」フリースクール ForLifeを任意団体として立ち上げ、翌98年4月開校。2002年4月NPO法人化。

子ども等が安心して過ごせる居場所作りや、生活者の視点に立った体験学習や人・もの・文化との出会いを大切にする“子どもが主体”の教育を展開。併せて発達障害をもつ子どもたちの活動スペースを開設し、独自の学び方を持つ子どもたちのソーシャルスキルプログラムや学習支援に力を注いでいる。そのほか「親の会」の開催や相談業務、研修、講演会などを継続的に行い、地域に開かれた子育て支援の活動を行っている。

2. 助成事業の概要

不登校・引きこもり生徒を対象に農作業（土おこし/畝作りなど）→野菜の栽培&収穫→料理そして、味わうなどの食育プログラムを実施。「食」への感謝を実感しつつ、専門家を招いての調理実習等勉強会を通して子どもたちのスキルアップを図った。

プログラムを行う一方、ふれあいまちづくり協議会、子育てサポートグループや子どもに関わるNPOと協働で青少年のサポートができないか、ネットワークを結びながら諸団体を交え協議を行った。

不登校・ひきこもりなどの子どもが社会貢献できる機会を得るため前述の諸団体と連携し、農作業時に収穫した作物等を利用して定期的に就労体験ができないか意見交換を行った。

ネットワークを結んだ諸団体とともに地域交流の推進を図り、不登校やひきこもりなどをはじめとする子育てにかかわる情報の発信や食育に関する啓蒙活動を行う企画を協議した。

3. 助成事業のアピールポイント・よかったこと・苦労したこと

■ アピールポイント

- ・市民農園を借りて通年の体験活動を通じて、地域交流のきっかけになったり、子どもたちの「食」に対する関心が高まり、食欲・探究心が旺盛になった。
- ・成果物として、「子どもが作るレシピ集」が、子どもの自信につながったうえ、地域交流の架け橋になっている。

■ よかったこと

- ・講演会などを通して、不登校に対する差別・偏見を超えた啓蒙活動の一端を担った。
- ・スタッフの意識が共有できたうえ、子どもたちに積極性がでてきた。その結果ボランティアやアルバイト仕事体験への意欲を持ち始めた。

■ 苦労したこと

- ・不登校の子どもがファッションナブルな格好や髪型で畑の作業をすることについて、地域の方々の驚きや視線が様々で理解してもらいづらい中で、子どもたちのモチベーションを維持すること、通いつづける事に苦労が要った。
- ・畑に行くといっても子どもの目標はそれぞれで、一生懸命作業する子どもがいる

一方、畑まで来るのに精一杯で作業に加わらず座り込んでしまう子どもや、畑に来て遊んでいるだけの子どもなど様々な子どもの状態を畑のボランティアさんに受け入れてもらい収穫の喜びを体験できたこと。

4. 助成金の活用状況

- 中間支援組織者金・・・(特) 神戸まちづくり研究所に当法人の事業推進と基盤の検証・アドバイスなどをいただいた。
- 講演会費用・・・不登校・ひきこもり・発達障害など当法人が支援の対象としている子どもたちに対する理解を求め、当法人の活動を支援していただくための講演会を2回開催した。
- 農業体験費用・・・市民農園の賃借費用と、畑までの交通費や野菜の種、肥料など。畑で地域の方々との交流が図られたことはよかった。
- 調理器具購入・・・別名「おにぎりプロジェクト」と題し、地域の方々を招いて共に食する機会を作るため(仲間展・模擬店など)、器具の購入の必要性が大であった。
- 調理実習費用・・・収穫野菜を料理し、旬に味覚を味わうことが出来た。子どもの調理のスキルアップにもつながった。
- その他スタッフ人件費、レシピ制作費、広報など

5. 今後の事業計画

- ・地域団体とのネットワークを活用することに重点を置く。具体的には同ネットワーク上で情報交流や物販・物流システムを構築し定期的にかつ短期間実施する。
- ・不登校、発達障害の子どもが同システムに携わり就労体験をする。
- ・情報交流や物販・物流システムとして、畑の野菜配布と畑のボランティア募集通知などを同ネットワーク上で行う。
- ・子どもたちが地域の行事に積極的に参画しまちづくり活動に貢献できるよう同ネットワークを通じて支援する。

以上のように食育を通じて子ども等が色々な角度から社会とつながりを持ち、就労のきっかけを持てるようにする。



畑作業の様子



レシピにある料理より



レシピ集



食卓をかこんで

在宅ワークを柱とした、母親達へのリ・チャレンジ支援事業

特定非営利活動法人 さんぴいす

1. 団体概要

さんぴいすは、新たな「遊びと学びの場」の創設を目的とし、「学校」「地域（コミュニティ）」「家庭」といった子どもの健全育成に深く関与する既存環境の活性化を行うとともに、子どもを見守り育てる立場にある市民及び市民活動団体の自立・成長に対しても様々な支援活動を行い、誰もが生き甲斐を持って暮らせる明るく活気にあふれた健全な市民社会の実現に寄与する事を目的に設立し活動を行っている。設立は平成16年9月 芦屋市に拠点を置き活動している。主な活動内容としては下記。

- 子育て支援のためのインキュベーションセンターぷらっとの運営（一時保育・カルチャースクール・事務局代行・ITサポートなどを実施）
- 子育て支援情報誌「ちょこっと」の発行 隔月 3,000部発行
- 子育て情報と地域の防犯情報の携帯電話への発信事業 など。

2. 助成事業の概要

ペルルは、妊娠・出産・育児中の女性が社会・地域と関わり続けるために、在宅ワークの提案と場づくりを行う事業としてスタートした。単に在宅ワーカーを作り出すということではなく、あくまでも「母親たちのキャリア形成支援」という再チャレンジ支援であり、在宅ワークを通して、多くの母親たちが持つ“さびつく”ことへの不安を解消し、社会復帰したい／社会とつながりたいという思いに応え、社会人として通用する人材として育成し、さらに活躍できる場をつくりだすことを目的としている。

3. 助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

1年次は、事業準備・立ち上げ期のため、本事業の存在を広く周知させ認知度をあげることを念頭に置いた事業展開とした。

そのための方策として、最も注力したのが次の2点であった。

- ①登録者獲得のための広報活動
- ②ワーク獲得のための広報活動

①登録者獲得のための広報活動

母親たちの在宅時間が長いことを考慮し、いつでも自分の都合の良い時間にアクセスできるという利点をもつWEBページ（パソコン用と携帯電話用の2種）とブログの制作を行った。いずれも12月中旬オープン）また、携帯メールを活用したメールマガジンの発行も3月より開始、月2回配信を行っている。Web・メールでの応募が全登録者数の50%を超えていることから、ITは母親たちに情報を伝える有効なツールであると言える。

※現時点でのブログへのアクセス数は開設より半年間で16,000件を記録した。

↓ Web ページ



②ワーク獲得、ペルルの事業周知のための広報活動

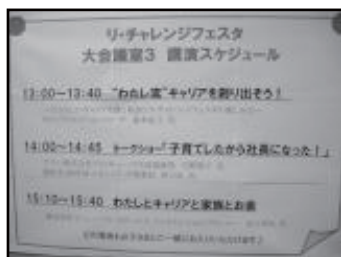
これまでのさんぴいすの活動の中で築いたネットワークを有効に活用して、行政への広報活動を行った。（10月～3月）

また、家の中にこもりがちな母親たちが、まず一步を踏み出すきっかけとして、女性支援のためのフォーラム・イベントを開催した。これらの開催における過程においても、さまざまな形で社会にペルルの存在をアピールすることができた。



2008年2月15日
「子育てしながらキャリアアップ！フォーラム」
in 芦屋市内レストラン

参加者10名



2008年3月 1日
「頑張る女性を応援！リ・チャレンジフェスタ」
in 大阪ドーンセンター

- ・延べ100名超の来場者
- ・13社の企業協賛



2008年3月10日
「子育てしながらキャリアアップ！フォーラム」
in 芦屋ラポルテホール

- ・株式会社マザーネット 上田社長からの講演

4. 助成金の活用状況

- ・事業の周知のための広報宣伝費（Web ページ・パンフレット・チラシ制作など）
- ・フォーラムやイベント開催のための費用
- ・イベント、講座などの会場代
- ・その他、一般管理費（リース、消耗品など）

5. 今後の事業計画

今後も引き続き、ペルルの事業周知および登録者・ワーク獲得のための活動は行っていく。登録者間の交流をはかるための交流会の開催やフォーラムの開催も予定している。さらに次年度からは、登録者の育成にも注力する必要があると考えており、具体的には登録者を対象とした〈在宅ワークお仕事塾〉を無償で実施する計画である。

また、ワークの面では〈SHOP 応援プリントパック〉を商品として営業活動を行い、地域の中小企業・商店の販促物制作をペルルが担うことで、地域活性化にもつなげていきたい。

団体名：特定非営利活動法人さんぴいす
代表者：河口 紅
所在地：〒659-0066 兵庫県芦屋市大槻町 7-2-301
連絡先：TEL&FAX 0797-22-8896 E-mail: info@peruru-net.com
URL: http://peruru-net.com

認知症介護者のリフレッシュと

介護予防・介護学習及び認知症高齢者家庭への見守り派遣・外出支援

特定非営利活動法人 つどい場さくらちゃん

1 団体概要

当法人は 2004 年 3 月に開設した任意団体【つどい場さくらちゃん】の維持、継続のため 2007 年 4 月に NPO 法人化、現在、団体会員：9 団体、個人会員：159 名で 55 名のボランティアが活動している。高齢者・介護者に対して、地域に根ざし、まごころのこもった高齢者・介護者への見守り等生活支援事業、介護に関する相談・普及啓発・情報提供事業及び地域住民との交流事業などを行い、全ての人々が健やかに暮らせる地域社会づくりに貢献し、あわせて社会福祉の増進に寄与することを目的として設立。

見守りタイ おでかけタイ 学びタイ そして

あなたを支えたい!!

2 助成事業の概要

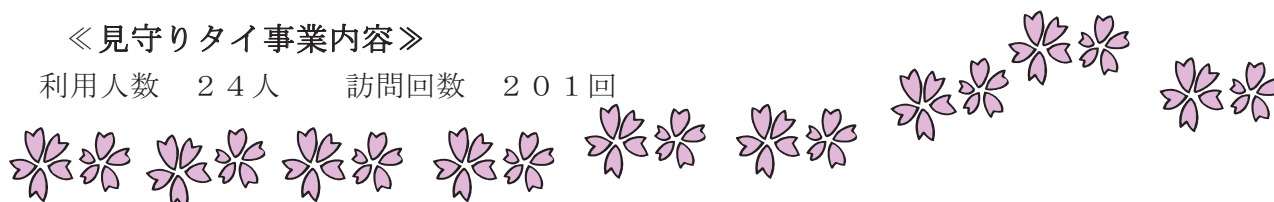
つどい場に来るボランティア（認知症介護者や介護者 OB 等）が中心となり、学びタイ・見守りタイを企画運営した。

《学びタイ事業内容》

	テーマ	講師	参加人数
1	傾聴入門セミナー	栗野真造さん	42名
2	旅立ちに添う	梅谷公子さん	17名
3	腰痛予防実技	川崎美織さん・田中国彦さん	24名
4	あなたはどこで死にたいですか	長尾和宏さん	31名
5	地域とのネットワークづくり	足立栄子さん	26名
6	見守り支援員の傾聴を学ぶ	中村禮子さん	18名
7	共に生きる道 「癒し人になる生き方」	沼野尚美さん	62名
8	西宮の地域福祉を学ぶ	植村直巳さん	12名
9	どうする!!地域の暮らし!	藤井博志さん	40名

《見守りタイ事業内容》

利用人数 24人 訪問回数 201回



3 助成事業のアピールポイント

介護者や介護職、地域一般市民にも広く声かけ、見守り支援員養成として傾聴講座、看取りや対人援助講座などを開き、認知症についても学び傾聴の意義や方法を体験、さらに介護者の思いを知ることで介護者家族支援の意識を高めた。また地域福祉活動や地域ケアシステム作りについて市社協職員や大学講師を招き、地域の住民にも地域ケアの必要性を発信した。在宅支援診療所やホス



ピスカウンセラーから、死と積極的に対峙する姿勢や医療の現状を学び、終末期まで共に生きる視点で介護者や要介護者を支える活動の必要性を学んだ。見守り支援員養成講座を受講した者から支援員を募集し、見守り支援員として西宮市内の要介護者（在宅、施設、病院）の話し相手や散歩付き添い、買い物付き添い、見守り等の事業を展開した。

9回の講座に招いた講師陣・参加者から人の輪が広がり「か（介護）い（医療）ご（ご近所）学会 in 西宮」2008（認知症になっても見放さない西宮にするために）“みんなでしゃべり場”を開催できた。介護者からの想いを発信し関係事業者・行政・地域住民の連携を深め地域ケアのネットワーク化への意識を高めた。

4 助成金の活用状況

- ・ 講座費用：講師謝礼、会場使用料、交通費、チラシ製作費
- ・ 図書購入費
- ・ つどい場さくらちゃん活動紹介DVD製作費

5 今後の事業計画

当NPO法人では、設立以来、認知症の人と家族をサポートする事業を展開してきた。終末期の緩和ケアというとがん患者に代表されやすいが、認知症の緩和ケアについても不治の病という視点でとらえるなら、家族介護者サポートと、学びのアプローチが重要であると考えられる。認知症を正しく理解し終末期まで人間らしく暮らすための地域、生活リハビリの重要性を介護者、ケアスタッフ、医療従事者等が同じテーブルで再確認しながら、地域ケアネットワーク作りの一役を担う。認知症の人は「何も分からない」というレッテルを貼るのではなく豊富な経験から得た知恵や技術を引き出せるケアスタッフ、ボランティアの育成を目指す。



特定非営利活動法人つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子
〒662-0972 西宮市今在家町 1-3 TEL・FAX 0798-35-0251
Email:tsudoiba_sakurachan@yahoo.co.jp HP: http://www.geocities.jp/tsudoiba_sakurachan/

尼崎地域子育て支援キーステーション事業

特定非営利活動法人 男女共同参画ネット尼崎

1 団体概要

平成15年6月設立、同年10月NPO法人格取得。「だれもが個として自立し、尊重される社会」「性別により、差別を受けることのない社会」「子どもの人権が尊重される社会」「市民参画と協働のまちづくり」を目指し、活動を続けてきました。平成16年7月より尼崎市女性センターの指定管理者として、事業実施、貸館業務を行っています。その他、法人自主講座の開催、相談事業、ニュースの発行などの活動をしています。

2 助成事業の概要

子育て家庭において、孤立した母親の子育ての困難さを軽減し、また働く母親の仕事との両立を支援し、親のみならず、子どもへの安全・安心とともに心豊かな時間を創り出すことを目的とし、一時保育・家事援助・協同保育・交流会・情報誌の発行を実施。

*一時保育・家事援助のためのサポーター必須講座 開催

この事業の運営には登録サポーターの確保が重要であり、また当法人のサポーターの資質として、支援のための知識や技術だけではなく男女共同参画の視点を学び、活動に活かすための講座を実施しました。

①子育て家庭をとりまく環境への理解を深め、子育ての不安や困難を感じている親の気持ちに寄り添い、ともに子どもの成長を喜び合える支援をする②性別にとらわれない多様な個性と生き方を受け入れる視点を持ち、子どもや親とかかわる力をつける③多様なニーズに細やかな対応をするための知識と技術・マナーを身につける、等を目的に開催しました。講師陣にも恵まれて、内容の充実した講座となりました。参加者には、有資格者や子育て支援活動をされているかたも多く、とても熱心に受講されました。そして、修了者の中から13名がサポーター登録をされました。

H19年9～10月 「サポーターのための必須講座」 全4回

H19年11月 「子育て家庭への家事サポーター必須講座」 全3回

*協同保育 ポップコーン 開催

2歳半から未就園児の子どもとその親を対象に、親子で季節感のあるプログラムを楽しむ中で、子どもたちは友だちづくりや集団遊びのルール・マナーを体験。そして親たちも保育に参加することで、親同士の情報交換や連帯感が生まれ、子育ての楽しさを保育士とボランティアともども共有できました。

H19年10月～H20年3月

毎週水・金 月8回(全40回)

上の島のびのび館2階



＊地域親子交流会 開催

子育て家庭と子育て支援に関心のあるかたとの出会いの場であり、子育ての楽しさと地域のつながりを感じる交流会を開催しました。親子・関係者・スタッフ約 60 人が参加して、身体活動を体験し、笑顔と歓声のあがる楽しいひとときでした。

H19 年 12 月 「親子で楽しく身体活動」 尼崎市女性センターにて実施

＊子育て情報誌「あまこもジャーナル」 発行

地域と内容にこだわり、子育てに関することをていねいに取材して、確かな情報をリアルタイムに届けることを大切に創刊しました。地域の図書館・公共施設・小児科医院・歯科医院・つどいの広場・子育て支援施設等に配架依頼をしました。

H19 年 11 月・H20 年 1 月・3 月発行 (A4 版・4 ページ・カラー印刷・500 部)

3 助成事業のアピールポイント・良かったこと・困ったこと

- ・ この事業に関わったスタッフが過去 6 年間、住民協働型子育て支援事業で培ったノウハウと人のつながりをこの事業に活かし、即戦力となるサポーターを集めることができました。
- ・ サポーター養成講座の講師陣も、これまでの当法人のネットワークを活かして依頼することができ、「日々、成長していく子どもに寄り添い、個性を大切に豊かな楽しい時間を創り出す」活動のスキルアップになりました。
- ・ 事業実施に当たって、この助成金を得ることができたので、養成講座の実施とサポーターの確保、協同保育などを実施、スタッフ経費も確保できました。
- ・ 協同保育・ポップコーンの参加人数が 5 組以上増えなくて、次年度の課題となりました。

4 助成金の活用状況

サポーターのための必須講座 (計 7 回)、地域親子交流会、リーフレット・活動報告書作成、子育て情報誌発行、スタッフ報酬等、事業実施の経費や人件費に活用しました

5 今後の事業計画

- ・ 一時保育、家事援助・・・地域の中での出会いを大切に一つひとつのていねいな活動等、地道な努力を続け、活動を広げることにより、地域の子どもたちの安全・安心につなげていく。また「地域親子交流会」を実施することにより、地域のつながりと、活動の認知度を高めていく。
- ・ 協同保育・・・親育ち・子育ちにつながるカリキュラムをより一層充実させ、参加者の満足度を高める。募集ちらしの配布、参加者の口コミ、見学者の受け入れなど、積極的に行い、参加者の増加につなげる。
- ・ 出前保育・・・新しい取り組みであるため、すでに実施している団体の情報を得るなどして、さまざまなニーズに応えていくための方策を考える。

特定非営利活動法人男女共同参画ネット尼崎

理事長 加藤 道子

〒661-0033 尼崎市南武庫之荘 3-3-10-103 TEL/FAX 06-6435-3889

<http://sankakunet-amagasaki-npo.com/>

E-mail sankakunet3889@future.ocn.ne.jp

カナダ・トロントのNPOによるメディアづくりを通じた青少年の育成活動

特定非営利活動法人 たかとりコミュニティセンター 村上桂太郎

1 受け入れ団体の名称・概要等

Regent Park Focus Youth Media Arts Centre（以下、RPF）はトロントのRegent Park 地区の中心部に拠点を構える若者主体のNPO。第2次大戦以後の移民人口が7割以上を占め、絶対的貧困率も7割以上といわれる地域において、健全なコミュニティづくりとその持続のために、コミュニティメディアづくりに着目し、地域の若者たち自らがその制作を通して、地域を活性化し、さらには社会変革に導く担い手となっていくことを目指して活動している。

2 インターン活動の概要



2007年10月22日～28日の一週間、現地で団体運営、資金調達、人材確保などについてのノウハウを主にプログラムディレクターへのヒアリングを通じて学んだ。また、ビデオ制作を初めとした表現・発信活動のプログラムの内容とスタッフコーディネート、社会変革のために活動を広めていく発信・啓発の手法について、日常において行われているプログラムと事務業務への参加といった実地経験を通じて学んだ。

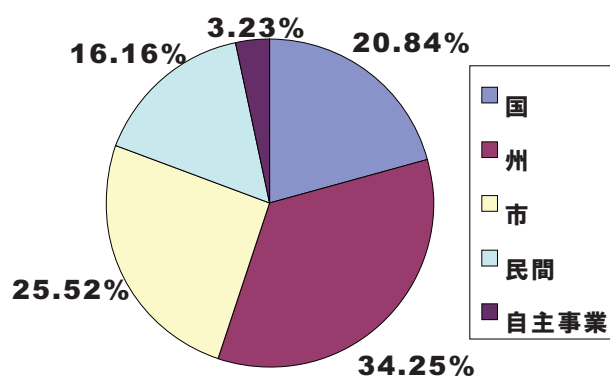
3 インターン成果の報告

RPFの設立経緯を探ることにより、若者の健全育成に取り組む団体への行政の助成のあり方や、その前提となっている「平等」概念の捉え方を知ることができたことは、今後の自団体の運営や活動を持続させていくために、行政や民間企業との協働の方向性を考えていく上での大きなヒントとなった。

1988年にトロントで起きた少年の麻薬による死亡事件をきっかけに、オンタリオ州政府は青少年の麻薬問題への対応を迫られた。こうして1989年に州政府の厚生省によって“Focus Communities Program”という薬物・アルコール防止対策が立ち上げられ、リージェント・パークを含む貧しい9つのコミュニティに事業遂行するための資金が提供された。各コミュニティは、運営組織の形成、住民参加の問題解決、麻薬防止に関するニーズの把握といった州政府からの要求さえ満たしていれば、住民から出てくるアイデアに従って、麻薬防止のためにパイロット期間の2年とそれ以降の4年の計6年の間、年間約400,000カナダドルの資金を自由に活用することができたのである。RPFでは、若者たちがより積極的にプログラムに関与してもらえる方法を様々な活動の実施を通じて検討した結果、薬物の危険に関する情報を提供するよりも、若者自らが知りたいと思う情報を探し出せるツールを提供することに決めた。そうして1993年に地元の小学校で開始され

た麻薬防止のためのビデオ制作教室が、メディアを自由に使って課題を探求し、自らの力を成長させていくという今日の RPF の活動の方向性を決定付けることになった。

こうした州政府の政策には、各地域の貧困率や年齢別人口を把握した上で、貧困や犯罪などの課題が多い地域に重点的に継続的な資金を投入し底上げしていくことによって、社会全体の平等に近づけていこうとする思想が根底にある。また、そうした行政の取り組みから RPF のように住民の創意工夫が凝らされたアプローチが生まれてきたのである。1995 年には当初の予定どおり州の厚生省からの助成は大幅に削減されたが、映像制作、Web 動画サイトの運営、地域情報誌の発行、ラジオ番組制作などコミュニティメディアの活動は青少年の育成や健全なコミュニティ形成と活性化といった観点から社会的に大きな注目と評価を受け、RPF は他の行政機関の多くから助成を得ながら継続的な発展を実現している。



RPF の現在の収入に関する予算構成は左図のとおりで、年間予算約 300,000 カナダドルのうち約 8 割が行政からの助成で成り立っており、そのほとんどが 4 年間の継続的な助成を見込むことができるようである。

一方、ビデオ制作など自主事業での収入は 10,000 カナダドル程度と少ない。

また、支出に関してはフルタイムスタッフ 5 名とパートタイムスタッフ 8 名の人件費が全体の 7 割以上を占めている。いまだ多くの助成金

で人件費を対象経費としては計上できない日本

ではなかなか想像もできない羨ましくもある財政状況であるが、これを単に環境の違いと片付けることはたやすい。ここ数年来、日本国内の NPO への公的投資はコミュニティビジネスや社会起業家の育成に重点を置く趣きがある。しかし、税金の集め方と使い方といった根源的な問題もしっかり視野に入れながら、RPF が行っているようなコミュニティを通じた青少年の育成とスキルアップを行う市民団体の事業に予算を割くことによって、初めてコミュニティビジネスの前提でもある地域リソースを生み出し、格差社会の解消にもつながっていくのではないだろうか。

4 インターン成果の今後の活用方法等

RPF での実地体験による知識と技術の習得から、日本の地域社会における多文化教育やメディアリテラシー教育への取り組みに向けた今後の課題を、運営基盤の確保とプログラムの充実というハード・ソフトの両面から整理し、多文化共生社会の推進を促すアドボカシーおよび青少年育成プログラムの開発に結びつけていきたい。また、団体運営や資金調達、人材確保のノウハウを可能な限り当センターで取り入れ、2002 年度より当センターで実施している「Re:C-多文化な子どもたちによる表現活動」事業の持続的発展に不可欠な安定した運営と財源の基盤確立に繋げていきたい。

特定非営利活動法人 たかとりコミュニティセンター
〒653-0052 神戸市長田区海運町 3-3-8
Tel.&Fax: 078-736-3065 URL: <http://www.tcc117.org/>

公共交通へのモーダルシフトを通じた環境配慮生活啓発事業

特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター

【特定非営利活動法人宝塚NPOセンター概要】

1998年4月設立。1999年9月特定非営利活動法人宝塚NPOセンターへ。宝塚市に拠点を置き、宝塚市のまちづくり・市民活動・NPO支援をはじめ、兵庫県阪神地域のNPOや社会的起業家をサポートしています。

【助成事業の概要・協働の相手方】

阪神都市圏広域バスマップの協働運営を通じて、環境配慮生活を推進する。協働の相手方は、兵庫県阪神北県民局県土整備部宝塚土木事務所（以下、宝塚土木事務所）である。

阪神都市圏広域バスマップは、2006年3月に紙版サンプル版作成、2007年3月に初版発行、Web版・ブログ版の基本サービス開始、2008年3月に第2版発行、2008年4月よりWeb版及びブログ版のポータルサービス開始に至っている。現在は、紙版（第2版）、Web版、ブログ版の3つから構成される。

- ①紙版；A1版，表面に兵庫県阪神地域のバス停・路線マップ，裏面に主要ターミナル情報及び路線情報を掲載
- ②Web版；紙版バスマップ表面をWeb化。各バス停がバスマップブログのバス停情報へリンクされている
- ③ブログ版；全バス停の基礎情報をバス停ごとにブログ化



図1 紙版

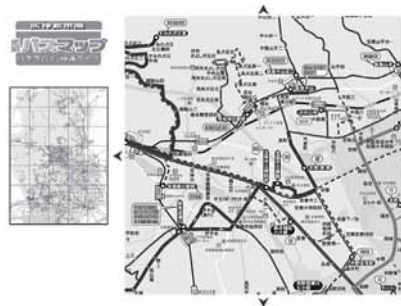


図2 Web版



図3 ブログ版

阪神都市圏（尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町）は、約170万の人口を擁し、鉄道駅約85、バス停留所約1,650箇所を有しており、鉄道5事業者、バス8事業者が公共交通サービスを提供している。阪神都市圏は神戸と大阪の周縁に位置し、拡大解釈をすれば1つの生活圏であるが、その生活の足となるべき公共交通の総合的な地図情報が無かった。特にバスの場合、各事業者が相互に乗り入れている地域ではバス事業者間の乗継が便利な路

線・地域もあるが、利用しようにも各事業者の路線図があるだけで、地元住民でも利用困難だった。そこで、地理的な位置関係を反映した総合的なバス路線情報が必要となってくる。さらに、環境に配慮したモーダルシフトやモビリティマネジメントの促進など、公共交通の利用促進が重要な地域テーマとなっている。

かかる現状をふまえ、宝塚土木事務所が事務局となり、阪神都市圏広域バスマップが作成され、本協働事業として、主に Web 化を通じた普及啓発部分を宝塚 NPOC が担当している。

【助成事業の効果・成果、助成金の活用状況】

紙版を主に宝塚土木事務所が担当し、Web 版・ブログ版を宝塚 NPOC が担当することで双方の強みを発揮することができ、効果的な協働を実現できた。

さらに、地域ポータルサイト「関西ええこと .mot」を宝塚 NPOC が共同運営していたことで、図 4 の阪神都市圏公共交通利用促進ポータルサイトを開設し、Web 上での効果的な普及啓発を実現できた。ブログ版の累積ページビューは約 80 万（2008 年 9 月末時点）、現在は 800～1,500PV/日となっている。

本助成金は、主に、Web 版・ブログ版のサービス向上に活用した。

【今後の事業計画】

今後も、紙版を主に宝塚土木事務所が担当し、Web 版・ブログ版を宝塚 NPOC が担当することで効果的な協働事業を継続していく。同時に、広告収入など自主財源の確保にも努めていき、年に 1 回の版の更新を実現していく。

【運営事務局】

特定非営利活動法人宝塚 NPO センター 金森康

宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F

TEL 0797-85-7766 E-mail zukanpo@hnpn.net

URL <http://www.hnpn.comsapo.net/zukanpo/>

阪神都市圏公共交通利用促進ポータルサイト URL

<http://www.hnpn.comsapo.net/portal/ptpr/portal.index>



図 4 ポータルサイト

阪神なぎさ「人・自然」交流復活事業

特定非営利活動法人 シンフォニー

1 団体概要

シンフォニーは、阪神・淡路大震災の際のボランティア活動を基盤に発足した、まちづくりのNPO法人である。現在ITを活用して、まちづくりの推進、環境保全、NPO支援をミッションに、主に阪神地域で事業展開をしている。

2 助成事業の概要

「阪神なぎさ『人・自然』交流復活事業」は、平成17年度から3年度に亘り、阪神南県民局地域魅力づくり担当課と協働して、「阪神南地域」の魅力づくりを大きなテーマとして実施した。うち、平成19年度の活動の概略を報告する。

(1) もだんるーぷバス事業

平成19年度、阪神南県民局は、美術館、酒蔵など阪神南の特徴ある地域資源をツーリズム型で活用する手段として「阪神南もだんるーぷバス」を走らせた。NPO法人シンフォニーは、広報活動、チケット販売を担当したほか、このループバス事業と連携した地域イベントを企画、運営、支援した。

(2) Webによる情報発信

阪神南地域「なぎさ環境ポータル」Webサイトの運営を7月から開始し、次のような情報の配信を行った。

- ・阪神南の魅力あるイメージ作り（阪神南県民局からの広報、ループバスの案内、地域イベントの情報発信など）
 - ・阪神南臨海部の市民環境グループ、環境関連施設の紹介（WebGISを活用）
 - ・イベントカレンダーの設置（阪神南地域の環境、まちづくり活動の案内）
- 運営に係る作業や費用はシンフォニーが担当し、行政は情報提供を行う形になった。

(3) 共同イベントの実施

阪神なぎさ「人・自然」交流復活事業のシンボルイベントとして、第3回目の「阪神南なぎさフェスタ」を開催した。

- ・日時：平成19年10月21日（日） 10:30～16:00
- ・場所：尼崎市 尼崎の森中央緑地（尼崎スポーツの森・施設東側）
- ・出展（出店）団体：46団体（54ブース）
- ・ステージ出演団体：地元団体9団体、県警音楽隊マーチングバンド

この事業は、県民局や3市など14団体で構成する「阪神南なぎさフェスタ実行委員会」が主催。シンフォニーは阪神南県民局の担当課と共に事務局を担当した。

(4) 円卓会議の開催

この事業は、NPO法人シンフォニーと阪神南県民局との協働に、地域の多様な主体をまきこんでいくためのラウンドテーブルとして始まった。当初、環境グループに



限定しての場づくりだったが、平成 18 年度からは、徐々にまちづくりグループなども参加するようになり、阪神南地域の「ラウンドテーブル」としては定着して来た。

- ・平成 19 年度実施回数：3 回
- ・参加団体数（延べ）：20 団体
- ・イベント参加者数（延べ）：36 名

(5) フォーラムの開催

平成 19 年度の活動成果を次年度以降につなげていくために、「阪神なごさ環境フォーラム」を開催した。

- ・テーマ：自然・人が共生するまちづくりをめざして
- ・基調講演講師：中瀬 勲氏（人と自然の博物館副館長）
- ・日時：平成 20 年 3 月 29 日（土） 14:00～16:30
- ・場所：西宮市民会館 中会議室 A（3F）
- ・イベント参加者数：30 名



3 今後の事業計画

協働の相手方である阪神南県民局地域魅力づくり課が他部署に統合されたこともあり、行政のコミットは縮小せざるを得ない。しかし、それを補うだけの市民力、NPO 力も育ちつつあり、今後はより市民主導型になり、それに行政が参画するという協働の次のステージへ進むだろう。この現状と展望を踏まえ、次のような活動を計画している。

(1) 情報発信の合理化

阪神南の行政、市民団体などの地域情報発信を合理化する。

(2) 産業ツーリズム型の事業を発展

地域の住民、事業者を主体とする「産業ツーリズム」型へ転換して行く。阪神南県民局と協働で、阪神地域の再発見をテーマに美術館、博物館等を巡回する「もだんるーぷバス」事業を行う。

(3) 多様な主体によるラウンドテーブルづくり

今後地域のより多くの多様な主体が参加する議論の場づくりとして発展させて行く。

(4) 地域コーディネイター、地域リーダーの育成

文化ボランティアコーディネータ養成講座を実施し、地域で働く人や住民、事業者が「産業ツーリズム型」活動をリードする原動力となるよう人材育成を行う。

(5) 役割分担

これまでの行政主導・市民参画型協働から、市民主導・行政参画型の協働に転換していくのが望ましい。

NPO 法人と阪神南県民局との協働は、そうした地域協働のコアとして位置づけ、その周りに多様な協働プロジェクトが誕生するよう支援して行きたい。

特定非営利活動法人 シンフォニー
〒660-0826 尼崎市北城内 88-4-2-106
TEL: 06-6412-8446 / FAX: 06-6412-8444
公式 Web サイト: <http://npos.cc/>

猪名川の自然を食べる・・・自然教育プロジェクト

きららの森

4月21日	キッチン「山菜を食べる」 (参加:大人25人・子ども18人・スタッフ8人)
5月19日	キッチン「若葉をとって食べる」 (参加:大人26人・子ども22人・スタッフ8人)
6月16日	キッチン「黒川伝統の粽作り」 (参加:大人29人・子ども19人・スタッフ7人)
7月21日	キッチン「夏野菜のピザとシソのジュース」(参加:大人26人・子ども17人・スタッフ7人)
8月18日 8月27日	キッチン「手打ちうどん」 (参加:大人15人・子ども16人・スタッフ7人) 第1回ひょうごっこグリーンガーデン 阪神北地域研究会
9月15日	幼児向けエコ探検隊 (参加:大人23人・子ども28人・スタッフ16人)
10月20日	幼児向けエコ探検隊 (参加:大人22人・子ども23人・スタッフ16人)
11月17日	幼児向けエコ探検隊 (参加:大人24人・子ども26人・スタッフ20人)
12月9日 12月15日	こどもと地域の環境会議 キッチン「お釜でご飯」(参加:大人8人・子ども13人・スタッフ9人)
1月27日	キッチン「お餅つき」 (参加:大人70人・子ども40人)
2月16日	キッチン「食べられる根っこを捜してみよう」(参加:大人10人・子ども11人・スタッフ6人)
3月15日	キッチン「春の芽を探して食べる」 (参加:大人8人・子ども7人・スタッフ8人) 第2回ひょうごっこグリーンガーデン 阪神北地域研究会

<目的>

地域における幼児の環境教育、自然育児の推進と、きらら会員の意識向上。

<事業内容>

① フィールド調査

阪神北地域における豊かな自然を活用して、幼児期における体験型環境学習を実施できるフィールドを調査する

② ひょうごっこグリーンガーデン阪神北地域研究会における意見集約。

阪神北地域の特性を生かした幼児期における体験型環境学習プログラムなどを検討するひょうごっこグリーンガーデン阪神北地域研究会に参加して、マニュアル（案）を提示・説明し、同研究会の構成員である現場の幼稚園・認可保育所代表者や学識経験者等の意見集約を行う。

③ モデル事業の実施

主に幼児を対象とした体験型環境学習プログラムを実施し、課題を把握するとともにその解決方法を探り、ひょうごっこグリーンガーデン実践事業に資するためのプログラム例を構築。

④ 「こどもと地域の環境会議」における展示ラリーに参加

阪神北県民局の開催する「こどもと地域の環境会議」の展示ラリーにおいてきららの活動を紹介する。

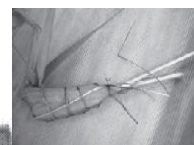
⑤ マニュアルの作成・配付

情報収集の結果に基づいて、マニュアルを作成し、阪神北県民局管内の幼稚園及び認可保育所等関係機関に配付する。

手探りではじめてキッチン事業も4年目に入り

きららの森は1998年より、月2回の土曜日、芸術活動を通して子供に、仲間とともに学ぶことの楽しさを理解してもらおうと、活動を続けてきました。父兄も同じ体験や読書会ワークショップなどを通じて、「土の上を歩くことさえままならない昨今…。もっと自然に根ざしたアウトドアな体験を！」という趣旨で始まったのがきららの森のキッチンです。日本一の里山を背景にした一庫ならではの地の利を活かし、薪拾いや山菜採りをした後、かまどやピザ釜を利用した素朴な料理を作って、食べて、楽しんでいます。当初宣伝もままならず、参加者はきらら会員とロコミ

でお越しいただく数人で催行していましたが、NPO法人ひとくら里山楽校との連携や兵庫県立一庫公園管理事務所との連絡がスムーズの運ぶようになり、宣伝活動も充実してきました。その結果、今では行楽のシーズンには定員を超える一般応募者があり、参加をやむを得ずお断りすることも。会員はスタッフとして一般参加者のサービスに当たっています。



ひょうごアドプト中間機関事業

特定非営利活動法人 コムサロン21

(1) **団体概要**

平成3年9月設立 平成12年1月NPO法人認証
会員数162名（平成20年9月現在）

中間支援NPOとして、市民活動団体の事務局代行、起業や運営の相談業務、行政等からの委託事業・助成事業を行なっている。

★事業内容★

- ① 社会貢献を目的とした市民活動を行う個人及び団体の事務局代行業務
- ② 社会貢献を目的とした市民活動を行う個人及び団体の交流の場（サロン）の運営
- ③ 社会貢献を目的とした市民活動に関する情報の提供や相談・助言・支援事業
- ④ 職業紹介及び就労支援事業
- ⑤ 行政等との協働による事業

(2) **助成事業の概要**

兵庫県が実施する住民参加のひょうごアドプト事業（アドプトプログラム等）の実施率を高め、円滑な事業実施とその継続性を高めるための、行政と住民の協働における「中間機関」について検証実施を行い、モデルプランを策定することを目的として3年間事業を行ってきた。

- ▶ 協働の相手方 … 兵庫県中播磨県民局 県土整備部 姫路土木事務所
- 1年次 … 現状把握のため、広島県マイロード協議会にヒアリング調査に行ったり、福崎土木事務所管内の実施団体に視察に行ってきた。
- 2年次 … 中播磨県民局内のアドプト事業実施団体に対しアンケート及びヒアリング調査を行った。
- 3年次 … 1、2年次の調査結果を踏まえ、検証実施をすることになり、福崎町内にある国体で整備された県道沿いの花壇をモデルとして、当団体が中間機関として関わり事業に取り組んだ。

(3) **助成事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと など**

- ①行政側担当者の人事異動で、計画案が見直しになったり修正せざるをえなくなったこと。
- ②行政側に認識の温度差があったこと（県庁と県民局、県と地方自治体、等）
- ③住民団体との調整に苦労したこと（対象道路が複数の地縁団体に関係し、アドプト以外の施策要因によってもその活動が影響されることがあった）
- ④行政の財政事情もあり、実施拡大による費用増加の対処法を解決しておく必要がある。

(4) **助成金の活用状況**

- ◆専門家、有識者、ヒアリング団体等への諸謝金、旅費交通費
- ◆報告書の印刷製本費

(5) **今後の事業計画（課題の整理、中間機能モデル、提言）**

◆実施によって見えてきた課題は次の通りである。

- ・ 地元団体（地縁団体）との調整、根回しの重要性
- ・ 兵庫県と地方自治体の役割分担や道路によって異なる管理責任
- ・ “線”としての道路と“点”としてのアドプトの対象地域の選定
- ・ 花壇の“管理・整備”と“清掃”の区別
- ・ 活動資金の調達方法
- ・ “キーマン”＝実施中心者の必要性
- ・ （アドプト事業に関わる関係者への）呼びかけは、企画段階から必要
- ・ 専門家（アドプト事業や花壇の管理）のネットワーク
- ・ 住民意識啓発活動の重要性

◆中間機関の機能モデルについては次の通りである。

- ①地域との様々なネットワーク（団体や人など）を有すること
- ②資金調達能力があること
- ③地域への啓発活動ができること
- ④ホームページで広報能力を有すること

ただし、上記中間機関の設置については次の現実的課題がある。

- ①当面、（兵庫県の）花苗への供給予算は見込めない。活動資金の調達は、行政関係からではなく民間から集めることが必要であること。
- ②企業から協賛をいただいた場合、（対象道路での）企業広告の利用許可範囲が不明確であること。
- ③中間機関＝道路維持管理のコーディネーター事業、と考え方が理解されていない。つまり、トータルのコストダウンにつながるという考え方が理解されない。

提言

ひょうごアドプトが継続して実施され、活動地域や活動団体が拡充されてゆくためには、中間機関の具体的な業務に関する更なる研究と、設置に向けての体制づくりの取組みが重要である。

(6) 活動状況



視察・ヒアリング調査



関係団体との会議風景



花壇内の雑草取りの状況

(7) (団体代表者氏名) 理事長 前川裕司

(住所) 〒670-0932 兵庫県姫路市下寺町 43 姫路商工会議所新館 4階

(連絡先) 電話：079-224-8803 FAX：079-2241553

URL：<http://www.com21.or.jp> E-Mail：info@com21.or.jp

「中間支援としての支援のあり方実態調査」事業

特定非営利活動法人 宝塚NPOセンター

1 団体概要

「市民の手で市民活動を支える」震災を教訓に1998年設立した民間の市民活動を支援するセンター。市民参画を促進し、協働のまちづくりで新たな公のセクターの確立をめざす。主な事業一人材育成講座・市民活動啓発のための講演・NPO法人設立支援や運営相談・NPOネットワーク作り・コミュニティビジネスのコンサルタント等。

2 助成事業の概要

中間支援の支援サービスの開拓をするために、NPO法人の実態調査を実施した。

- ① 宝塚市を中心とした兵庫県下の53のNPO法人に対して、平成19年11月～平成20年3月の5ヶ月間に当センターのスタッフが対象NPO法人の事務所や当センターで、ヒヤリングシートを使用して各NPO法人の実態、運営、課題、目標、当センター（中間支援センター）へのサポートの要望等を調査。
- ② 調査時点で出た相談や質問に対してはスタッフで対応したが、会計・広報・IT・研修企画などの専門性の高い相談に対しては、コンサルタントを紹介するなど課題解決をした。コンサルに関しては9回、研修に関しては2回開催した。
- ③ 調査内容に関してはそれぞれ情報公開用にパワーポイントで活動紹介冊子を作成。その他団体の基本情報や今後相談時の資料となるためのメモを作成するなど、調査内容を用途に応じて記録した。

3 助成事業のアピールポイント

今回の得られた効果)

- ① ネットワークの広がりや信頼関係の構築
 - ・ 今回の調査先の大半は、従来より法人設立の相談や運営相談、情報提供先であるため、事業・活動内容を把握していたが、事務所に訪問してリーダーやスタッフと時間をかけ同じ目線で話を聞くことで、事業の内容がより明確となり課題についても本音が聞けるなど、調査したスタッフとNPO法人のリーダーやスタッフとの信頼関係が構築された。また専門性の高い相談はコンサルにつなげて、スタッフのスキルアップとなった。
- ② 情報収集
 - ・ 今回はほとんどのNPO法人から事業報告やパンフレット、チラシなど資料を収集、NPO法人について行政やボランティア希望者などから情報を求められることも多く、NPO法人の資料が充実したことでよりNPO法人の基本情報を作成するのに貴重なデータとなった。
- ③ コーディネート（求人・求職、ボランティアコーディネート）
 - ・ ヒヤリングシートを作成する段階で、具体的な求人情報（資格・働き方・求人方法・職種・望む人材など）スタッフで協議して作成した結果、NPO法人別に求人のニーズが具体的に把握でき求職者とのマッチングをスムーズに進めることが出来た。当センターが求人・求職などの職業紹介事業をPRしたことで、福祉系のNPO法人からの求人が増加した。

- ・ またボランティアに関しては、近年団塊・シニア世代のボランティアが増加しており、今回調査先でボランティアの受入確認をするなど受入対象先が増加した。
- ④ 新規講座開講
- ・ ヘルパー研修講座開催を福祉系NPO法人から複数希望があり実施した。
- ⑤ 広報の充実（毎日新聞、神戸新聞、産経リビング、FM宝塚）
- ・ どのNPO法人も広報など積極的に希望するところが多く、今回の調査で新たな情報を得て幅広くマスコミに情報提供できた。

今後の課題)

- ・ 実態調査の協力を得られなかったNPO法人に対しても、引き続き情報提供等を得られる様に進めていきたい。

4 助成金の活用状況

助成金支出の約41%が人件費に充当された。内訳は資料作成の事務のアルバイトとスタッフの人件費。またNPO法人への調査の負担を考慮して、調査先に謝金を支払うことでスムーズにリサーチが実施できた。

5 今後の事業展開の方向

各NPO法人からは現行のサービスに加えて「NPO間のネットワークをもう一歩進めて、(中略)情報集中のハブとなることで、行政と対等な力を持つこと」「審議委員にNPO枠で専門家を推して欲しい」「市役所でNPOが集まり政策提言の会の開催」など行政との協働を進める要望が多く見られ、平成20年度は以下の事業を実施する方向である。

- ・ 行政、企業、NPOを結ぶ「協働マネジメント宿泊研修（リーダー向け）」：7月
- ・ 宝塚市役所職員研修で市内NPO法人の活動紹介：7月
- ・ 宝塚市長とNPOとのラウンドテーブルの場の提供：10月予定
- ・ 宝塚市一協働推進、協働環境整備の実現のための調査研究
- ・ 阪神NPO連絡協議会-NPOサミット開催「震災関連のイベント（振り返り、語れる会）」～いざ、まさかの時対応できるネットワーク～：21年1月予定



活動紹介事例

左図：パワーポイントによるNPO法人の活動紹介（53NPO法人作成）

内容(公開)：事業概要・事業内容・事業サービス対象者・活動地域・事業規模・協働事例・特に大事にしている点・課題、ニーズ・目標・その他・連絡先

追記メモ(非公開)：課題、今後のサポート方針、特記事項など

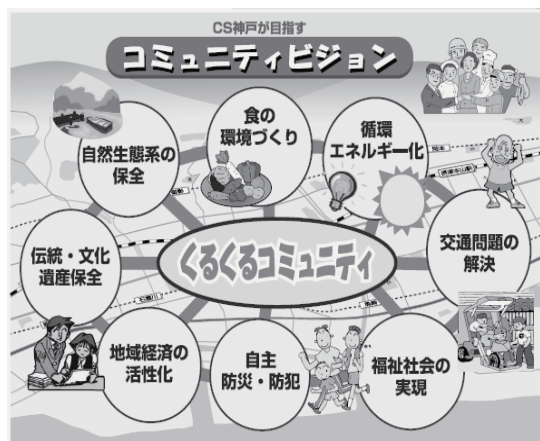
連絡先	特・宝塚NPOセンター 〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 リオ 1-3F TEL:0797-85-7766 FAX: 85-7799 E-mail zukanpo@hnpo.net
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------

指定管理者制度の実態調査～兵庫から発信する新たなモデル～

特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

1 団体概要

1995年の阪神・淡路大震災を契機に生まれたボランティアグループ「東灘・地域助け合いネットワーク」を母体にして、「自立と共生」に基づくコミュニティづくりを支援する中間支援団体として1996年10月に発足。「共生循環型のまちづくり」や「NPO手法によるコミュニティ事業」を実現するための団体立ち上げや運営支援を行っており、人材育成と新たな公共領域の開拓にもチャレンジしているNPOを支援するNPO団体である。



2 助成事業の概要



今回の調査の目的は、「兵庫県における指定管理者制度」の実態を郵送アンケート調査とヒアリング調査で、送付数417通、回答数147通の回収率35.2%のアンケート調査、NPO2団体と1企業および兵庫県・神戸市・芦屋市・西宮市・尼崎市の自治体担当職員からのヒアリング調査を実施。また、今回の調査事業で得られた成果をひろく公開することも目指し、調査報告書のダイジェスト版を基にして、ミニフォーラムを開催しました。

<アンケート調査>は、指定管理者の団体に関する質問（法人の種別・事業規模）、事業実施にかかる質問（受託期間・受託金額等）、公募に関する質問、受託をしてからの感想（新たな取り組みの有無・課題等）、自由記述。

<ヒアリング調査>は、指定管理者制度の実施状況、指定管理者の施設分類ごとの団体種別、制度導入ならびに公募に関する質問、指定管理者への質問（期待・課題・配慮等）、制度導入によってもたらされた効果。

調査対象施設概要

施設の分野	1. レクリエーション・スポーツ施設 28 2. 産業振興施設 10 3. 基盤施設 11 4. 文化施設 38 5. 社会福祉施設 4 6. その他 20
施設の所在地	①神戸20 ②阪神南21 ③阪神北28 ④東播磨21 ⑤北播磨8 ⑥中播磨21 ⑦西播磨15 ⑧但馬0 ⑨丹波11 ⑩淡路2
施設運営に関わる有給職員数(※フルタイム換算)	0～5人：65 6～10人：23 11～15人：13 16～20人：15 21人以上：16

総務省調査（全国）と今回のCS調査（兵庫県）の比較で際立ったものとして、下記の

表1の指定管理を受けている組織の形態では、全国ではNPO法人は1.7%に過ぎないが、兵庫県では10.9%、表2の指定管理受託期間では、全国では3年以上～5年未満が56.5%に対して兵庫県では43%と少なく、5年以上が35.6%に対して9.9%と少ない。また、表3の利用料金制では、全国では46.9%が何らかの形で利用料金制を採用しているのに対して兵庫県では36.9%と約10ポイントも低い結果となりました。指定管理者のより主体的な運営を促すためにも利用料金制のさらなる導入が望まれると感じました。

表1 組織形態

	株式・有限	財団・社団	社福法人	社福協議会	NPO法人	その他
CS調査：%	17.7	27.2	21.1	10.9	<u>10.9</u>	12.2

表2 指定期間

	3年未満	3年以上～5年未満	5年以上
CS調査：%	47.1	<u>43.0</u>	<u>9.9</u>

表3 利用料金制の採用状況

	採用：A	一部採用：B	採用＋一部採用：A＋B	不採用	その他
CS調査：%	31.5	5.4	<u>36.9</u>	42.3	20.8

3 助成金のアピールポイント

指定管理者制度は、住民サービスの向上と管理運営経費の縮減を進めるためだけでなく、リビング・ウェイジおよびプライベートリビング・ウェイジの考えかたの導入および受託団体の持続可能な経営を阻害しないように間接経費（事務所経費、総務、研修、会計、通信費など）の重要性をアピールできたことは大変良かった。また、中間支援組織の立場からは、その提言をミニフォーラムで発表し、実態調査報告書を作成できたことは意義があった。本事業が契機となり、大阪府においても同様の調査を実施できた。大阪でもフォーラムを開催でき、大阪・兵庫で指定管理および中間支援組織のネットワークが広がったことは本助成金のおかげである。これらの調査には公的な信用保証の有無が回収率を左右する。その点においては、貴会からの助成は、本調査の回収率を引き上げる大きな要因となった。

NPO法人をはじめとした指定管理者として公の施設運営にかかわっている、またはかかわる可能性のある団体、公の施設の設置者である自治体、そして施設の利用者である住民に参照され、制度の運用が改善される一助になることを期待している。

4 助成金の活用状況

事業実施に関する運営委員会、事務局等の経費をまかなうことが出来、実際の調査に従事された委員を始め、調査、分析、まとめをしていただいた方に謝金を支払うことも出来、有効に助成金を活用できました。また、フォーラム開催、資料作成等にも支出が出来、貴重な財源となった。

5 今後の事業計画

指定管理者制度研究会のネットワークを広げていき、ML等で意見交換を始めながら関西エリアだけではなく、全国的な広がりにつなげていければと考えている。

団体名：特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸
 所在地：〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル 3-4 階
 連絡先：TEL:078-841-0310 URL:<http://www.cskobe.com> E-mail:info@cskobe.com

東播磨の支援機能整備へ向けた「市民団体掘り起こし事業」

特定非営利活動法人 明石NPOセンター

1 団体概要

平成 15 年 4 月に法人化、税理士や司法書士などの専門家が集まり、NPO 法人や市民活動のサポートを行う中間支援をミッションとして設立した。継続的な活動をサポートするため、単なる立ち上げの支援だけではなく、資金繰りの相談、会計相談、法人格の選び方等の運営相談に重点を置いている。平成 20 年度は、下記のような事業を通して、NPO 法人や市民活動のサポートを行い、市民活動の自立と発展を目指す。

- (1) 生きがいごとサポートセンター播磨東ウエキスの運営
コミュニティ・ビジネスの起業・運営相談、就業支援
- (2) あかし市民活動団体協議会の事務局
明石市内の市民活動団体 65 団体(平成 20 年 6 月現在)で構成される協議会
- (3) 兵庫県立東播磨生活創造センター「かこむ」の運営
NPO 法人シーズ加古川との共同事業体として受託、地域活動のサポート等
- (4) 事務局機能代行事業
会計や各種書類の作成、届出などの事務部分のサポート

2 助成事業の概要

市民活動団体の実態調査を行い、「本当の生の声」を生かしたサポート体制を確立する。

【調査内容】

(1) 調査対象

東播磨地域(明石市、加古川市、高砂市、加古郡稲美町、加古郡播磨町)に拠点を置き、公益活動を行っている NPO 法人および市民活動団体

※ 対象となる NPO 法人は兵庫県が平成 19 年 8 月 31 日までに認証した法人

NPO 法人以外の市民活動団体(以下、「市民活動団体」)については、次に登録する団体(ひょうごボランティアプラザのコラボネット、あかし市民活動団体協議会、かこがわ市民団体連絡協議会、加古川市ボランティアセンター、高砂市ボランティアセンター、稲美町ボランティア協会)

(2) 主な調査項目

活動状況、抱えている課題・問題点、今後の意向や、組織運営について等

(3) 調査実施期間 平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 7 日

(4) 調査方法

① 調査票を郵送配布して回収するアンケート調査、② 個別ヒアリング

(5) 調査団体数

① アンケート調査 NPO 法人：対象 102 法人、回収 62 法人(回収率 60.8%)

市民活動団体：対象 501 団体、回収 123 団体(回収率 24.6%)

② 個別ヒアリング NPO 法人：59 団体、市民活動団体：26 団体

3 助成事業のアピールポイント

(1) NPO 法人について

NPO 法人は、毎年度所轄庁への事業報告の提出が義務付けられていたり、会員(正社員)の入会に不当な条件をつけてはいけなかったりと、広く市民に支えられるためのディスクロズの意識を求められている。しかし、個別ヒアリングにおいて、事業費と管理費の仕訳方法が曖昧であったり、煩雑な会計処理のまま運営を行っている団体も多く見受けられた。また、現状として法人の組織自体が危ぶまれるというようなことはないため、「特に徹底しなければならないわけではない」という「甘さ」も見受けられた。しかし、自由な市民活動を必要以上に制約するようなことがあってはならないという NPO 法の根本的な考え方があり、徹底した指導を行うことへの難しさがあるものの、現状のままであることは NPO 法人自体の信頼性という点では、非常にマイナスであり、ある程度の目安となる会計基準の作成や指導体制の確立が必要であると考えられる。

(2) NPO 法人以外の市民活動団体について

市民活動団体の設立は気軽に行えるために、設立と消滅のサイクルが把握しづらい。今回の調査においても、活動を休眠していたり、解散していたりする団体も多くあった。

また、現在活動を行っているほとんどの団体が、現状の活動展開でほぼ満足しており、今後増やしたい活動があると答えた団体は 20%程度、さらに法人化を考えている団体 123 団体のうち 0 団体と、現状を継続する意識が強く活動の拡大については消極的であることがわかった。他団体等との交流についても、特に必要ないまたは現状で満足と答えた団体が 5 割で、必要と答えた残りの 5 割についても、活動を圧迫しない形で、機会があれば交流できたらという程度の要望であり、個別の課題があるときへの相談体制の確立やニーズに応じてのマッチングを行っていくサポートが必要である。

4 助成金の活用状況

当該事業は直接団体へ出向いて行うヒアリング調査が中心であり、調査のための人件費や外部意見を取り入れるための委員会開催に関する専門家への謝礼金に利用。

5 今後の事業計画

当該事業を通して、NPO 法人においては会計や経営そのものについて悩む団体が非常に多く、またその内容も法人によって様々であった。それを支援する中間支援組織としては、相談業務のスタッフのスキルアップを行い、団体ごとのニーズに合わせたサポート体制を確立する必要がある。

特定非営利活動法人明石 NPO センター 理事長：野村明伯
〒673-0005 明石市小久保 120-55 サバービアシティ 21-A 棟 105 号
TEL (078) 926-0083 FAX (078) 926-0084 URL <http://www.akashi-npo.com/>

NPO法人の労務管理に関する研究

特定非営利活動法人 コムサロン 21

1 団体概要

- ・ 平成3年9月設立 平成12年1月NPO法人認証
- ・ 会員数162名（平成20年9月現在）
- ・ 中間支援NPOとして、市民活動団体の事務局代行、起業や運営の相談業務、行政等からの委託事業・助成事業を行なっている。

★事業内容★

- ① 社会貢献を目的とした市民活動を行う個人及び団体の事務局代行業務
- ② 社会貢献を目的とした市民活動を行う個人及び団体の交流の場（サロン）の運営
- ③ 社会貢献を目的とした市民活動に関する情報の提供や相談・助言・支援事業
- ④ 職業紹介及び就労支援事業
- ⑤ 行政等との協働による事業

2 助成事業の概要

- ① 兵庫県内のNPO法人の労務管理の実態を確認するため、アンケート用紙を元に県内のNPO法人（それぞれ違うジャンルの事業を行っているNPO法人）に対して、ヒアリング調査を実施した。
- ② 上記①を踏まえ、労務管理や雇用契約に関する手続きの仕方やNPO向けの就業規則等の書式をまとめた冊子『NPO法人における労務管理』とCD-ROMを作成した。（各200部）
- ③ 上記①、②を踏まえ、「NPO労務管理セミナー」を開催し、冊子並びにCD-ROMを配付した。
 - 姫路開催＝3月18日（火）於：イーグレひめじ セミナー室A 14名参加
 - 神戸開催＝3月19日（水）於：神戸市青少年会館レクリエーションホール 21名参加

3 助成事業のアピールポイント

- ◆ ヒアリングを行ったNPO団体全てが労務管理について関心があり、普段相談に乗っているNPO団体からも労務管理についてのマニュアルが欲しいという要望が強かったため、とてもニーズのある研究テーマであったこと。
- ◆ 相談にあたるスタッフが、労務管理に関する基礎的なアドバイスが出来るようになり、相談者も安心して気軽に相談するようになったこと。
- ◆ CD-ROMを作成したことにより、各NPO団体が自分たちで容易に就業規則などが作成できるようになったこと。
- ◆ これまで曖昧であったボランティアの処遇に関する規定も作成したこと。

4 助成金の活用状況

- ◆ 専門家（社会保険労務士）への監修費及び諸謝金

- ◆ 冊子『NPO法人における労務管理』とCD-ROMの作成
- ◆ セミナー開催のための経費（会場費及び講師謝金等）

5 今後の事業計画

- ◆ NPO法人の適正な運営のために、各団体の代表者又は専任スタッフが就業規則や労働契約の交わし方など労務管理やその事務処理に関する正しい知識を得ることが必要であるため、今後も継続して労務管理に関する啓発活動に努め、相談会も定期的に開催する。
- ◆ 就業規則や労働契約書の中身については、労使双方が納得するものを作成することが必須であり、法改正などがあった場合は速やかに修正できるよう、相談にあたるスタッフは常に情報収集しスキルアップを図っておく。
- ◆ ボランティアの処遇に関する規定（ボランティア規定など）については、無償のボランティアなのか、有償の労働者なのか、を明確に分けておく必要があることを各団体に啓発していく。
- ◆ より専門的な内容の相談には、社会保険労務士などが相談に乗れるようにする。

（活動状況）



【姫路会場】



【神戸会場】



【冊子とCD-ROM】

団体名：特定非営利活動法人 コムサロン 21 理事長 前川裕司
 所在地：670-0932 兵庫県姫路市下寺町 43 姫路商工会議所新館 4 階
 連絡先：TEL:079-224-8803 URL: <http://www.com21.or.jp> E-mail: info@com21.or.jp

兵庫県内の地域日本語教室の連携のためのガイドブック

兵庫日本語ボランティアネットワーク

1 団体概要

1997年7月27日に創立（今年で13年目）。兵庫県内各地の地域日本語学習支援教室29グループ及び日本語学習支援者など個人会員130名で構成している任意団体。

私たちが日常的に日本語支援を通して関わっている主な学習者は日系南米人、中国帰国者およびその家族、インドシナ難民およびその家族、日本人の配偶者であり、そうした彼らが、何らかの形で自己表現でき、日本社会に参加しうるような日本語学習支援活動や交流活動を目指すために地域日本語学習支援教室や日本語学習支援者への情報提供、研修会を実施している。また、日本語学習支援希望者への日本語学習支援者養成を主な事業として行っている。

特に県内でも近年増加している「外国」から来た子どもたちへの日本語学習支援、教科学習支援、母語学習支援についても喫緊の課題として取り組んでいる。

ひょうご日本語ネット（（財）兵庫県国際交流協会・（財）アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部・子ども多文化共生センター・神戸日本語教育協議会・兵庫日本語教師連絡会議・本ネットワーク）の一員として、兵庫県、神戸市関係行政と連携しながら、県内の日本語学習支援活動の質の向上を目指すと共に、多文化多言語社会の創生を目指していくことを目的としている。

2 助成事業の概要

兵庫県内には約10万人の外国人が在住し、そのうち4割は最近日本に来た人たちである。そうした外国人を対象に日本語学習支援をしている教室が約75団体ある。本ネットワーク加盟団体29を含め、そうした団体の概要と活動内容を日本語版と英語版で紹介した。

県内の日本語支援グループガイドブックは2004年3月3版を発行して以来3年間改訂してないため、それ以降新しくできた日本語学習支援や子ども支援団体、生活支援団体の概要及び活動紹介を目的とした。また同時に長い間更新できなかったホームページ（日本語および英語）も刷新を目指した。また、リーフレット（県内の日本語支援グループの連絡先記載）も新たにタガログ語を加え、日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語の8言語を作成した。

★ガイドブック（日本語版及び英語版）を以下に配布を行った。

1. 兵庫県国際交流協会より市町の国際交流団体
2. 兵庫県国際交流課より市町の外国人相談窓口
3. 兵庫県教育委員会人権教育課より各教育事務所
4. 神戸市国際交流課より神戸市内各区の外国人相談窓口
5. 県内のNGO・NPOの生活支援団体へ配布
6. 県内の日本語学習支援団体へ配布

★ホームページ（<http://www.hyogo-ip.or.jp/hnvn/>）（日本語・英語）は現在更新した

ものを公開中

3 本事業のアピールポイント・良かったこと・苦労したこと

今回特に調査段階で(財)兵庫県国際交流協会の協力を得て、新たに23団体を追加することができ、合計75団体を掲載することができた。(北阪神地区4団体、南阪神地区2団体、神戸地区2団体、東播磨地区3団体、中播磨地区2団体、北播磨地区1団体、西播磨地区3団体、外国から来た子ども支援グループ神戸地区4団体、中播磨地区2団体)

この事業を通して、東は猪名川町、西は赤穂市、北は豊岡市、南は洲本市と広範な地域で日本語学習支援活動の内容が明らかになった。彼らに伴われて、来日した子どもたちへの支援グループも神戸、姫路地区で新しく創設されていることも明らかになった。

この事業を通し、本ネットワーク加入を期待したが、特に遠隔地のグループは本ネットワーク主催の神戸市内での研修会、日本語学習支援者養成講座などに参加することが困難なため、本ネットワークに加盟するメリットが少ない。そのため新たな入会グループは少数であった。

4 助成金の活用状況

80万円の助成金のうち、ガイドブック、HP編集のための編集費および翻訳費(英語版と7言語のリーフレット)に43万円、印刷製本費に30万円、通信運搬費や消耗品費7万円を活用した。

5 今後の事業計画

- (1) 県内各地にある日本語支援グループとのさらなる連携強化を目指し、少しでも多くの団体が「兵庫日本語ボランティアネットワーク」に加入し、ともに活動できる事業を開拓する。
- (2) 今後も(財)兵庫県国際交流協会多文化共生課日本語指導担当者の協力を得て、県内の日本語教室(特に市、町の国際交流協会で開催している日本語教室)の概要、内容をHP上で更新し、県内の日本語支援団体、外国から来た子ども支援団体、外国人への生活支援団体のネットワークの強化をさらに目指す。
- (3) 特に、今回の改訂ガイドブックに記載した「外国から来た子どもたち」への日本語学習・教科学習・母語学習支援団体のネットワーク化を目指し、情報交換、研修活動を行う。
- (4) 今回の改訂ガイドブックに記載した日本語学習支援団体、学習支援者、学習者への質向上を目指す研修会を開催する。
- (5) 今回の調査でも明らかになったように、大部分の教室が支援者不足である。退職教員や退職者の人材活用のために日本語支援者養成講座を開催し、県内各地の日本語教室で活躍できるような場を作っていきたい。

所在地：〒650-0004 神戸市中央区中山手通1丁目28-7 NGO 神戸外国人救援ネット内
連絡先：TEL:078-752-8415 E-mail:buadu406@hi-net.zaq.ne.jp
HP: <http://www.hyogo-ip.or.jp/hnvn/>

NPOの団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験

ひょうごんテック

1 団体概要

NPO 活動・市民活動の現場では、パソコンをはじめとする ICT（情報通信技術）は、なくてはならないものです。ひょうごんテックは ICT に伴う様々な問題を解決し、効果的に活用できるよう、IT 支援の団体や人のネットワークづくりを目指しています。

2 助成事業の概要

本事業は、中古パソコンと「オープンソース・ソフトウェア（自由かつ無償で使えるソフト。以下 OSS）」で、NPO の日常業務は可能かどうかを実際に NPO スタッフが検証したものです。

具体的には、初心者でも使えるように簡単なマニュアル付きで、OSS をインストールしたパソコンを無償で配布し、協力7団体のスタッフに日常的な作業をしてもらいました。質問や不具合などは、随時ひょうごんテックスタッフが対応し、その内容を記録しました。



3ヶ月後、使い勝手などの聞き取りを行ない、技術的な内容などを含めて報告会を実施しました。全44ページの報告書はひょうごんテックのウェブサイトで開催しています。

この実証実験の結果を一言で言うと、「OSSを使うことで、Windowsと比べてより安定した環境、コストの軽減といったメリットを享受できる。しかし、行う作業や周辺機器の種類によっては、既存のマイクロソフト製品に比べ使いづらい点も多い。これは今後ユーザ、開発側が協力していくことで解決可能である」ということです。「OSSって何？難しそう」という声もありましたが、実験参加者の多くが「使っていれば慣れる」と言っています。

また、OSSはいわゆる無料の「フリーソフト」とは一線を画したもので、「みんなで作ったものをみんなに公開して、みんなでよくしていく」という精神がベースになっています。NPOの方々には、ぜひこの精神を理解した上で、OSSを見直していただきたいと思えます。



※ Windows の代わりに「Ubuntu（ウブントウ）」、Word や Excel の代わりに「OpenOffice.org（オープンオフィス）」というソフトを使用しました。これらはオープンソース・ソフトウェア（OSS）と呼ばれるソフトの一種です。ユーザ数や市販のマニュアル類もまだ少数ですが、コスト削減や国際標準の採用などで注目され始めています。

3 助成事業のアピールポイント

- ・ 「一般ユーザが使いこなせるか」という点にこだわり、神戸周辺の7団体、初心者から上級者まで、実際に現場で使った率直な声を集めました。
- ・ OSSコミュニティとひょうごんテックを核として新たなネットワークができました。NPO、神戸といった枠組みに留まらない、ユニークな集いであり、ユーザと開発側が一同に会する場にもなっています。
- ・ 日経BP社ITpro (IT専門情報サイト) で、「ひょうごんテック『NPOの団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験』の報告書を公開」と題し、本事業が取り上げられました。



4 助成金の活用状況

助成金 615,000 円の内訳は、直接経費：技術者人件費 85%、パソコン購入 (1 台) 7%、講演会などの会場費や講師謝礼 6%、間接経費：書籍・運搬費 2%。その他の間接経費約 180,000 円は団体会計から拠出。実験用パソコン 8 台は関西大学吉野研究室より無償提供。

5 今後の事業計画

諸外国では政府や公共機関での導入、国内では住友電工や会津若松市による、オープンオフィスの採用など、OSS は今注目され始めています。

本事業の協力団体では OSS パソコンを使い続けていますが、この事業をきっかけに OSS を導入したという NPO は残念ながらまだありません。使い勝手や知名度、マニュアルの作成など、いろいろなことが求められています。

また、この事業をきっかけに、ひょうごんテック 2008 年度世話人として、OSS コミュニティからお 2 人が参加されています。今後は NPO へ OSS を広めていくと共に、より使いやすいソフトになるよう、OSS コミュニティと協力して活動を続けて参ります。



ひょうごんテック

〒653-0052 神戸市長田区海運町 3-3-8

たかとりコミュニティセンター内

E-mail: tech@tcc117.org URL: http://tcc117.org/hyogontech/

平成19年度『企業・NPO協働奨励事業』採択事業一覧

1 企業・NPO協働奨励事業とは？

異なる世界で活動してきた企業とNPOがし、地域社会の新しい課題に協働して取り組む気運が高まっています。

その先駆的事例を奨励することにより、協働事業を推進するため、平成17年度から開始した事業です。

なお、NPO法人等がCSRを真摯に推進している企業と協働し、地域社会の課題解決や、まちの活性化に向けた取り組みの一環として、既に実施している不特定多数の利益に供する事業を対象としています。



2 採択団体

1	事業名	太陽光発電・屋上緑化・炭の普及啓発
	団体名	特定非営利活動法人 環境21の会
	企業名	菱井商事 株式会社
	事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 太陽光発電の普及と市民共同発電所建設の啓発 2 授業やイベントを通じた太陽光発電や自然エネルギーの有効性啓発と理科教育の推進 3 屋上緑化により、ヒートアイランド現象による地球温暖化防止の推進を啓発 4 里山・竹林保全、ケナフ植栽を積極的に推進し間伐材やケナフ等の炭の普及啓発
2	事業名	働く母親への就労支援 地域のリソースを活用して企業内保育所をつくる事業
	団体名	特定非営利活動法人 さんぴいす
	企業名	株式会社 クラッシー
	事業概要	<p>非正規で働く母親あるいは働こうとしている母親達が、子どもの夏休み期間における保育・託児先を確保することは不安である。</p> <p>それらの対策としての企業内保育所の設置については大企業でなければ現実的に困難なケースが多い。</p> <p>この事業では身近なリソース（NPOや地元の人材、ボランティア）を活用することで、新たな形の企業内保育所の設置を目的としている。</p>

3	事業名	「市場」(マーケット)で「勝負!」する商品づくりプロジェクト～福祉系作業所とアート専門学校とのコラボレーション～
	団体名	特定非営利活動法人 市民事務局かわにし
	企業名	学校法人 コミュニケーションアート 大阪コミュニケーションアート専門学校
	事業概要	芸術系専門学生により、作業所で作成している商品のデザイン改良やラッピングの工夫といったスキルを発揮してもらい、商品価値を高め、販路拡大や、商品販売に関する意識改革を図る事業を行っている。
4	事業名	民間シェルターへの物品提供事業
	団体名	NPO 法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
	企業名	1 株式会社 シャルレ 2 P&G
	事業概要	企業の製品や在庫品を DV 被害女性や子どもへ提供する。
5	事業名	多文化な子どもたちによる表現活動「Re:C」
	団体名	特定非営利活動法人 たかとりコミュニティセンター
	企業名	松下電器産業 株式会社
	事業概要	多様な文化背景を持つ子ども達が、絵画やラジオ番組等の表現活動に取り組める環境を整備し、自らの存在やルーツに自信を持って成長してもらうことを目的としている。 また、それらの作品を発表することにより多文化の豊かさへの注目を促し、共生社会を目指した活動の活性化も視野に入れている。

ひょうごボランティア基金 過去の助成金交付実績

【平成14年度】

□ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

(単位:千円)

1年次(14年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	海外災害援助市民センター	日本語翻訳による海外の災害情報発信、及び学校教育における総合学習等の副読本づくり	180
2	(特)神戸まちづくり研究所	「ひょうご、まちづくりプラットフォーム」設立事業	300
3	(特)コムサロン21	NPO支援 地域ミニプラザ協働運営システムの構築	300
4	(特)シーズ加古川	市民活動支援センター機能構築事業	300
5	(特)市民芸術創造協会	姫路市音楽演劇練習場活性化事業	300
6	(特)女性と子どものエンパワメント関西	子ども育ちに関する学習会をとおして親を支援する事業	300
7	(特)シンフォニー	中高年人材マッチングシステム構築事業(市民人材交流・マッチング事業)	300
8	(特)宝塚NPOセンター	社会的起業家・インキュベーション・センター	300
9	(特)多文化共生センター・ひょうご	総合学習のための教職員研修	300
10	ツール・ド・コミュニケーション	多文化コンテンツクリエイター育成支援事業	300
11	(特)日本災害救援ボランティアネットワーク	地域防災力アップ 人材育成プログラム	300
12	(特)兵庫県腎友会	『‘いのち’の架け橋』発行事業	300
13	(特)兵庫県難聴者福祉協会	パソコン要約筆記者養成事業	300
14	プラザ5	住民主体のまちづくりファンドとシステムの調査・研究	300
	合 計		4,080

【平成15年度】

□ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

2年次(平成14年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	CODE海外災害援助市民センター	日本語翻訳による海外の災害情報発信	600
2	(特)神戸まちづくり研究所	「ひょうご、まちづくりプラットフォーム」設立事業	600
3	(特)コムサロン21	NPO支援 地域ミニプラザ 協働運営システムの構築	600
4	(特)女性と子どものエンパワメント関西	子ども育ちに関する学習会をとおして親を支援する事業	600
5	(特)シンフォニー	中高年人材マッチングシステム構築事業(NPO人材交流・マッチング事業)	600
6	(特)宝塚NPOセンター	社会的起業家・インキュベーション・センター	600
7	ツール・ド・コミュニケーション	多文化コンテンツクリエイター育成支援事業	600
8	(特)日本災害救援ボランティアネットワーク	地域防災力アップ 人材育成プログラム	600
9	(特)兵庫県腎友会	『‘いのち’の架け橋』発行事業	600
10	(特)兵庫県難聴者福祉協会	パソコン要約筆記者養成事業	600
	合 計		6,000

1年次(平成15年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	(特)アルファグリーンネット	兵庫県全県下オープンガーデン化推進プロジェクト	300
2	(特)NPOひょうご農業クラブ	よりあいクラブ明舞(食をとおしてコミュニティづくり事業)	300
3	神戸骨髄献血の和を広げる会	「命のかがやき」サポート事業～骨髄バンクドナー登録者倍増をめざして～	300
4	(特)神戸まちづくり研究所	新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業	300
5	(特)こみこみドットコム	障害児教育支援のためのマルチメディア教材作成事業	200
6	(特)支援の会ひまわり	老人保健施設、特別養護老人ホーム入所の身障者通院支援	200
7	(特)市民活動センター神戸	ネットワーク型市民活動相談員事業	300
8	多言語センターFACIL	兵庫県内の医療通訳システム構築	300
9	(特)姫路市介護サービス第三者評価機構	介護サービスの質的向上を目的とした従事者研修事業	300
10	兵庫県移送サービスネットワーク	移送サービス調査及び「兵庫県福祉移送に関する関係者懇談会」設置事業	300
11	兵庫日本語ボランティアネットワーク	外国から来た年少者への学習支援システムの創生	300
12	(特)ひょうご被害者支援センター	早期危機介入に対する準備に関しての調査・研究	300
13	(特)福祉支援センターアグリネット	明舞団地の見守り活動事業	300
	合 計		3,700

【平成16年度】

□ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

(単位:千円)

3年次(平成14年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	(特)神戸まちづくり研究所	兵庫まちづくりプラットフォーム設立事業	1,000
2	(特)シンフォニー	県職員NPOトライやる事業	1,000
3	(特)兵庫県腎友会	『‘いのち’の架け橋』発行事業	1,000
4	(特)兵庫県難聴者福祉協会	パソコン要約筆記者養成事業	1,000
5	CODE海外災害援助市民センター	日本語翻訳による海外の災害情報発信事業	586
6	(特)コムサロン21	NPO支援地域ミニプラザ(NPO中間支援組織)協働運営システムの構築	1,000
7	(特)宝塚NPOセンター	社会的起業家・インキュベーション・センター	1,000
8	ツール・ド・コミュニケーション	多文化コンテンツクリエイター育成活動	700
	合 計		7,286

2年次(平成15年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	(特)アルファグリーンネット	兵庫県全県下オープンガーデン化推進プロジェクト	600
2	神戸骨髓献血の和を広げる会	「命のかがやき」サポート事業～骨髓バンクドナー登録者倍増をめざして～	600
3	(特)神戸まちづくり研究所	新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業	600
4	(特)こみこみドットコム	障害児教育支援のためのマルチメディア教材作成事業	500
5	(特)支援の会ひまわり	老人保健施設、特別養護老人ホーム入所の身障者通院支援	600
6	多言語センターFACIL	兵庫県内の医療通訳システム構築	600
7	(特)姫路市介護サービス第三者評価機構	介護サービスの質的向上を目的とした従事者研修事業	600
8	兵庫県移送サービスネットワーク	研修会開催及び「兵庫県福祉移送に関する運営協議会」設置準備事業	600
9	兵庫日本語ボランティアネットワーク	外国から来た子どもたちへの学習支援システムの創生	600
10	(特)ひょうご被害者支援センター	早期危機介入に対する準備に関する調査・研究～直接支援活動～	600
11	(特)福祉支援センターアグリネット	明舞交流センター事業 ～行政情報発信基地と福祉就学機会の創出～	600
	合 計		6,500

1年次(平成16年度採択)

	団 体 名	事 業 名	助成額
1	(特)アマモ種子バンク	市民によるアマモ場造成事業	300
2	(特)コムサロン21	道路植栽管理におけるアドプトプログラムサポート事業	180
3	(特)兵庫県子ども文化振興協会	ママ・パパライン「ひとりで悩まないで!」子育て支援事業	300
4	(特)あかりの街ひめじ	地域特性を活かす公共屋外照明の設置ガイドライン支援事業	300
5	(特)ASUネット	「市民参画による」高齢者、身障者向け家具作りカレッジ	300
6	(特)環境21の会	環境教育推進事業(子供達を主体にした実践と実験を基にした環境教育)	300
7	(特)国際教育文化交流協会	留学生の参画による国際理解推進事業	300
	合 計		1,980

【平成17年度】

(単位:千円)

□ 学生ボランティア活動助成

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	神戸女子短期大学V-ネット	栄養士をめざす学生有志によるボランティア活動	39
2	神戸大学学生震災救援隊	「少数者の視点からのまちづくり」を考える連続講演会	100
3	ウィズネイチャー	野外教育学生リーダー育成事業 ～プログラム企画・実施・振り返り～	70
4	関西学院上ヶ原ハビタット	Bahay Atenista Work Camp (バハイアテニスタ・ワークキャンプ)	100
5	兵庫医科大学ボランティア部WITH YOU	病院食を食べてみよう!の会	70
6	神戸学生ユニオン	スクールキッズパートナー派遣事業	100
	合計		479

申請件数 11件 採択件数 6件 倍率 1.8倍

□ 立ち上げ支援助成

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)ひといき(1次募集)	事務所家賃助成	300
2	(特)市民活動センター神戸(1次募集)	インキュベーションスペース整備事業	281
3	でかけ隊(2次募集)	事務所家賃助成	257
4	(特)さんぴいす(2次募集)	事務所家賃助成	189
5	(特)高齢福祉市民ネット・川西(2次募集)	事務所家賃助成	52
	合計		1,079

1次募集分: 申請件数 5件 採択件数 4件 倍率 1.3倍のうち2件採択を辞退

2次募集分: 申請件数 5件 採択件数 3件 倍率 1.7倍

□ チャレンジ事業助成

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)アップストリーム障がい者支援センター	小規模多機能なコミュニティレストランの設立	1,000
2	(特)市民事務局かわにし	地域における緊急課題/社会的ニーズに“すぐに役立つ”窓口事業 ～JR福知山線列車事故被害者(負傷者)支援窓口とつどい～	1,000
3	(特)大名草	田舎定住お試し体験事業	780
4	(特)愛逢	現在週3日の配食サービス(夕食)を毎日型(月～土)に拡大する	500
5	農・都共生ネットこうべ	学校ビオトープ支援事業(かんさつ会、ため池調査啓蒙およびエコツアー)	360
	合計		3,640

申請件数 36件 採択件数 5件 倍率 7.2倍

□ インターン助成

採択事業はありません。

申請件数 2件 採択件数 0件

□ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

3年次(15年度採択)

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)アルファグリーンネット	兵庫県全県下オープンガーデン化推進プロジェクト	1,000
2	神戸骨髓献血の和を広げる会	「命のかがやき」サポート事業	1,000
3	(特)神戸まちづくり研究所	新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業	1,000
4	(特)こみこみドットコム	障害児教育支援のためのマルチメディア教材作成事業	1,000
5	多言語センターFACIL	兵庫県内の医療通訳システム構築	1,000
6	(特)姫路市介護サービス第三者評価機構	介護サービスの質的向上を目的とした従事者研修事業	1,000
7	兵庫日本語ボランティアネットワーク	外国から来た子どもたちへの学習支援システムの創生	1,000
8	(特)ひょうご被害者支援センター	早期危機介入に対する準備に関する調査・研究	1,000
	合計		8,000

平成15年度(第1年次) 申請件数 35件 採択件数 13件 倍率 2.7倍

平成16年度(第2年次) 採択件数 12件 倍率 2.9倍

平成17年度(第3年次) 採択件数 8件 倍率 4.4倍(1件採択を次年度に持ち越し)

2年次(16年度採択)

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)アマモ種子バンク	市民によるアマモ場造成事業	600
2	(特)コムサロン21	沿道花かざり事業におけるアドブプログラムサポート事業	600
3	(特)あかりの街ひめじ	地域でつくる安全・安心のあかり支援事業	600
4	(特)環境21の会	環境教育推進事業(実験を重視した子どもの環境教育)	600
5	(特)国際教育文化交流協会	留学生の参画による国際理解推進事業	600
	合計		3,000

平成16年度(第1年次) 申請件数 15件 採択件数 7件 倍率 2.1倍
 平成17年度(第2年次) 採択件数 5件 倍率 3.0倍

1年次(17年度採択)

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)たんばぐみ	ボランティアと市民ファンドによる古民家再生事業	300
2	(特)宝塚NPOセンター	公共交通へのモーダルシフトを通じた環境配慮生活啓発事業	300
3	(特)ブレーンヒューマニティー	不登校児童等の在宅学習支援のための教材作成事業	300
4	(特)シンフォニー	阪神なごさ回廊「自然・人」交流復活推進事業	300
5	ひょうごんテック	コミュニティWeb サイト構築プロジェクト	300
6	(特)ドラマ丸鬼奔流で町おこしをする会	三田歴史観光の環境整備と保全	300
7	三田を知る会	団塊世代・いきいき楽農プロジェクト	300
8	(特)Art Produce & Management Network	兵庫こども小劇場	300
9	きららの森	猪名川の自然を食べる・・・自然教育プロジェクト	300
	合計		2,700

申請件数 14件 採択件数 9件 倍率 1.6倍

□ 行政・NPO協働事業助成(行政提案型)

	助成団体名 (行政協働先)	助成事業名 (団体提案事業名)	助成額
1	ウィメンズネット・こうべ (健康生活部少子局児童課)	シェルター入居者自立支援事業	300
2	姫新線ふれあい菜の花プロジェクト (県土整備部県土企画局交通政策担当)	JR姫新線を活かした県民交流事業 (姫新線ふれあい菜の花プロジェクト)	300
3	(特)ひょうご新林家21 (県土整備部住宅復興局住宅計画課)	NPO法人等による住宅リフォーム支援事業 (信頼のリフォームセミナー:住宅リフォーム相談とセミナー)	300
4	ワークシェア (県土整備部住宅復興局復興推進課)	SCS(高齢世帯生活援助員)等に対する実践的研修事業 (高齢世帯生活援助員研修事業)	300
5	(特)ひょうご被害者支援センター (警察本部警務部警務課被害者対策室)	犯罪被害者に対する直接支援要員の養成	300
	合計		1,500

申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1.0倍 (行政からの提案件数 8件 採択件数 5件 倍率 1.6倍)

□ 企業・NPO協働奨励事業

	奨励団体名	奨励事業名	助成額
1	(特)フードバンク関西	余剰食品の有効活用による福祉団体支援	300
2	(特)ピア・しんぐう	廃棄物原料と再資源を目指しての高齢者元気アップ支援事業 (「華のじょじょ」他「針仕事人」のリメイク・リフォームのオンリーワン グッズの展示・販売)	300
3	(特)神戸まちづくり研究所	交通不便近郊団地での住民・NPO・行政・事業者協働開発のコミュニ ティバス運行	300
4	(特)シンフォニー	シニアITサポーター養成事業	300
5	(特)宝塚NPOセンター	阪神地域安心お助けネットWeb	300
	合計		1,500

申請件数 10件 採択件数 5件 倍率 2倍

□ 中間支援活動助成

	助成団体名	助成事業名	助成額
1	(特)コムサロン21	中間支援機能パワーアップ(相談機能の強化)	1,000
2	(特)神戸まちづくり研究所	市街地における商業団体・まちづくり団体・NPOのネットワーク促進	1,000
3	(特)市民活動センター神戸	NPOの政策提言力の開発にかかる調査研究とセミナー事業	1,000
4	(特)コミュニティ・サポートセンター神戸	企業のCSRと勤労者の地域活動・推進プロジェクト	1,000
5	(特)宝塚NPOセンター	NPO法人のキャパシティ・ビルディングを実現する会計相談事業	1,000
	合計		5,000

申請件数 14件 採択件数 5件 倍率 2.8倍

採択件数 : 53件	26,419
------------	--------

【平成18年度】

□ ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成

助成団体名 (ボランティア活動支援拠点協働先)	助成事業名	助成額
1 宍粟市福祉支援ネットワーク連絡会 しそう作業所・NPOふれあいまつり実行委員会 (宍粟市社会福祉協議会)	しそうNPO・作業所ふれあいまつり	500
2 エコマネー緑ヶ丘推進會 (三木市社会福祉協議会)	時代にあった地域における共助の仕組みづくり	900
3 特北播磨市民活動支援センター (小野市社会福祉協議会)	北播磨地域自然指導員育成事業	158
合計		1,558

申請件数 3件 採択件数 3件 倍率 1.0倍

□ 学生ボランティア活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1 ウィズネイチャー	ホッパーズクラブとリーダー研修	50
2 関西福祉大学手話サークル「にじ」	ろう者について知ろう!	50
3 げんきっこ新在家プロジェクト	げんきっこ新在家プロジェクト「セカンドベース」	50
4 神戸学生ユニオン	スクールキッズパートナー派遣事業	50
5 神戸大学学生震災救援隊	大学間「災害救援ネット(仮)」構築事業	100
6 神戸大学総合ボランティアセンター	学生ボランティアの推進と地域社会のニーズへの対応	50
7 神戸大学どんぐりチーム	児童・青少年の発達のための「居場所」づくりのための大学生サポーターの育成	50
8 国際交流・国際協力支援団体CLUB GEORDIE	GEORDIEセミナー	34
9 だんごの会	次世代ボランティアリーダー育成プロジェクト	50
合計		484

申請件数 9件 採択件数 9件 倍率 1.0倍

□ 立ち上げ支援助成

2年次(17年度採択 家賃助成分)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特ひといき	事務所家賃助成	150
2 でかけ隊	事務所家賃助成	180
3 特さんびいす	事務所家賃助成	205
4 特福祉市民ネット・川西	事務所家賃助成	274
合計		809

平成17年度(第1年次) 申請件数 10件 採択件数 7件 倍率 1.4倍 うち2件採択を辞退
平成18年度(第2年次) 採択件数 4件 (17年度採択5件のうち1件は17年度中に事業完了)

1年次(18年採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特知恵の和	事務所家賃助成	275
2 特市民サポートセンター明石	事務所家賃助成	280
3 特姫路人権ネットワーク	事務所家賃助成	300
合計		855

申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1.0倍 (うち2件採択を辞退)

□ チャレンジ事業助成

2年次(17年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特アップストリーム障がい者支援センター	小規模多機能なコミュニティレストランの設立	1,000
2 特市民事務局かわにし	地域における緊急課題/社会的ニーズに“すぐに役立つ”窓口事業 ～JR福知山線列車事故被害者(負傷者)支援窓口とつどい～	1,000
3 特愛逢	現在週3日の配食サービス(夕食)を毎日型(月～土)に拡大する	500
合計		2,500

平成17年度(第1年次) 申請件数 36件 採択件数 5件 倍率 7.2倍
平成18年度(第2年次) 申請件数 3件 採択件数 3件 倍率 1.0倍

1年次(18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特サポートセンター木立	障がい者が働く「高齢者向け軽食・喫茶店」の経営	1,000
2 特生涯学習サポート兵庫	子どもの発達よろず相談屋	840
3 特さわやか北摂	地域緊急課題/地域の閉じこもりがちな高齢者の外出支援と社会参加を促す事業	1,000
4 特ケアット	障害者の地域就労を支援する“心と身体のケアマネジメント”事業	1,000
5 特ブルービーンズショア	アートに出会う移動教室「ブルービーンズスクール」	500
6 特陽だまり	高齢者食事サービス事業	500
合計		4,840

平成18年度(第1年次) 申請件数 19件 採択件数 6件 倍率 3.2倍

□ インターン助成

助成者の所属団体 役職	受入先	助成額
1 (特)神戸まちづくり研究所 副理事長	日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)	300

申請件数 4件 採択件数 1件 倍率 4.0倍

□ 行政・NPO協働事業助成 (NPO提案型)

3年次 (16年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特環境21の会	環境教育推進事業 (実験を重視した子どもの環境教育)	1,000
2 特国際教育文化交流協会	留学生の参画による国際理解推進事業	1,000
合 計		2,000

平成16年度 (第1年次) 申請件数 15件 採択件数 7件 倍率 2.1倍
 平成17年度 (第2年次) 採択件数 5件 倍率 3.0倍
 平成18年度 (第3年次) 採択件数 2件 倍率 7.5倍 (2件採択を次年度に持ち越し)

2年次 (17年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特たんばぐみ	ボランティアと市民ファンドによる古民家再生事業	600
2 特宝塚NPOセンター	公共交通へのモーダルシフトを通じた環境配慮生活啓発事業	600
3 特シンフォニー	阪神なごさ環境「人・自然」交流復活事業	600
4 特Art Produce & Management Network	こども創造シアターネット	600
5 きららの森	猪名川の自然を食べる...自然教育プロジェクト	450
合 計		2,850

平成17年度 (第1年次) 申請件数 14件 採択件数 9件 倍率 1.6倍
 平成18年度 (第2年次) 採択件数 5件 倍率 2.8倍

1年次 (18年度採択)

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特いちじま丹波太郎	学校給食への地元産農産物の供給と食育の推進	300
2 ウィメンズネット・こうべ	デートDV防止の出前講座開催事業	300
3 特上野丘さつき家族会	神戸市北区淡河町に「ゾーン・タクシーの運行」を目指して!	300
4 特生涯学習サポート兵庫	不登校・ひきこもり対象体験活動セミナー	300
5 特発達障害児療育センターしらゆり	保育所における「発達障害児」への指導・療育を支援する事業	300
6 特兵庫県技術士会	地域産業振興のための人材育成を目標とした中小企業のデータベース構築事業	300
7 特Casaメーコッコ	里親里子総合援助事業	300
合 計		2,100

申請件数 17 採択件数 7件 倍率 2.4倍

□ 行政・NPO協働事業助成 (行政提案型)

助成団体名 (行政協働先)	助成事業名 (団体提案事業名)	助成額
1 特ソーシャル・デザイン・ファンド (県民政策部政策局ビジョン課)	「兵庫コミュニティ指標」(仮称)の作成に向けた検討 ～美しい兵庫指標の新展開～	300
2 ウィメンズネット・こうべ (健康生活部少子局児童課)	DV防止・被害者支援活動事業 (DV被害者支援事業)	300
3 特兵庫セルフセンター (健康生活部福祉局障害者支援課)	障害者の一般就労移行のための実践的モデル事業の実施 (障害者の一般就労移行のための実践的モデル事業)	300
4 特ひょうご地域防災サポート隊 (県土整備部県土企画局技術企画課)	風水害に対する防災知識の普及・啓発事業 (風水害等に対する防災知識の普及・啓発事業)	300
5 特ひょうご被害者支援センター (警察本部警務部警務課被害者対策室)	犯罪被害者等への直接支援と支援意識高揚のための広報活動の推進 について	300
合 計		1,500

申請件数 5件 採択件数 5件 倍率 1.0倍
 (行政からの提案件数 5件 採択件数 5件 倍率 1倍)

□ 企業・NPO協働奨励事業

奨励団体名	奨励事業名	奨励額
1 特コムサロン21	2月2日夫婦感謝の日イベント	300
2 特生涯学習サポート兵庫	旅行と野外体験の合体 ～野外体験旅行の実施～	300
合 計		600

申請件数 5件 採択件数 2件 倍率 2.5倍

□ 中間支援活動助成

助成団体名	助成事業名	助成額
1 特コムサロン21	播磨地域のネットワーク拠点づくり	1,000
2 特神戸まちづくり研究所	コミュニティ応援隊のためのスキルアップ研修事業	1,000
3 特宝塚NPOセンター	NPO法人の会計・労務これだけはやろう絶対に!事業	1,000
4 特コミュニティ・サポートセンター神戸	ひょうご・まちとまのり生活アトリエネットワーク	1,000
5 特市民活動センター神戸	社会的価値を創造するNPOへの経営・起業相談ならびにその社会的共有化の事業	1,000
6 特シンフォニー	NPO情報リテラシー支援プログラム	1,000
7 特ひょうごセルフヘルプ支援センター	セルフヘルプグループリーダーによる相談支援体制の整備事業	500
合 計		6,500

申請件数 14件 採択件数 7件 倍率 2.0倍

採択件数 : 57件	26,896
------------	--------

平成19年度県民ボランティア活動助成エントリー受理及び交付決定一覧

①保健、医療又は福祉の増進を図る活動、③まちづくりの推進を図る活動、④学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動、⑤環境の保全を図る活動、⑦地域安全活動、⑩子どもの健全育成を図る活動、⑰前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

社協名	エントリー 受理件数	交付決定 件数								
			①	③	④	⑤	⑦	⑩	⑰	
神戸市	874	806	454	73	70	15	28	112	3	
神戸市社協	33	30	17	0	2	2	0	4	0	
東灘区	78	73	43	8	4	1	1	11	0	
灘区	69	63	31	8	6	0	4	9	0	
中央区	116	108	59	12	3	1	2	17	2	
兵庫区	87	77	57	2	7	1	4	4	0	
北区	94	85	33	4	16	5	5	16	0	
長田区	34	30	13	6	3	0	1	2	0	
須磨区	95	87	49	13	9	1	4	8	0	
垂水区	131	127	97	8	6	0	1	8	0	
西区	137	126	55	12	14	4	6	33	1	
阪神南地域	352	332	198	17	29	14	19	40	0	
尼崎市	207	193	120	6	17	9	6	25	0	
西宮市	95	91	55	6	2	3	11	12	0	
芦屋市	50	48	23	5	10	2	2	3	0	
阪神北地域	364	340	180	39	19	10	20	53	4	
伊丹市	54	48	27	0	6	0	2	12	0	
宝塚市	174	164	87	23	8	5	7	22	2	
川西市	50	49	25	4	1	0	9	5	1	
三田市	72	66	33	9	4	4	1	14	1	
猪名川町	14	13	8	3	0	1	1	0	0	
東播磨地域	186	166	98	22	14	2	9	13	2	
明石市	96	88	50	14	6	1	6	5	2	
加古川市	41	39	31	2	2	0	1	2	0	
高砂市	28	24	10	4	2	1	2	5	0	
稲美町	12	9	4	2	2	0	0	1	0	
播磨町	9	6	3	0	2	0	0	0	0	
北播磨地域	244	228	155	15	19	5	6	20	0	
西脇市	32	26	21	0	0	0	1	2	0	
黒田庄支部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三木市	120	113	73	10	12	5	3	8	0	
吉川支所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小野市	24	22	14	2	3	0	0	2	0	
加西市	53	52	39	2	3	0	0	6	0	
多可町	1	1	0	0	1	0	0	0	0	
本部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中支部	1	1	0	0	1	0	0	0	0	
加美支部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
八千代支部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
加東市	14	14	8	1	0	0	2	2	0	
社支部	10	0	-	-	-	-	-	-	-	
滝野支部	1	0	-	-	-	-	-	-	-	
東条支部	3	0	-	-	-	-	-	-	-	
中播磨地域	382	370	275	28	12	3	10	30	3	
姫路市	279	270	193	20	9	3	10	27	3	
家島地域事務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
夢前地域事務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香寺地域事務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
安富地域事務	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神河町	42	41	35	3	1	0	0	2	0	
神河町本所	27	27	24	1	1	0	0	1	0	
大河内支所	15	14	11	2	0	0	0	1	0	
福崎町	39	39	27	5	2	0	0	1	0	
市川町	22	20	20	0	0	0	0	0	0	
西播磨地域	222	209	125	17	11	3	20	21	2	
相生市	44	42	16	5	3	0	9	8	1	
赤穂市	19	19	14	3	1	0	0	0	0	
たつの市	60	55	40	2	1	0	4	4	1	
龍野支部	29	27	16	2	1	0	2	3	1	
新宮支部	17	16	15	0	0	0	0	1	0	
揖保川支部	5	4	2	0	0	0	2	0	0	
御津支部	9	8	7	0	0	0	0	0	0	
太子町	18	15	8	0	1	0	3	1	0	
上郡町	9	9	7	0	0	0	0	1	0	

社協名	エントリー 受理件数	交付決定 件数								
			①	③	④	⑤	⑦	⑩	⑰	
宍粟市	53	50	30	4	5	0	4	5	0	
山崎支部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
一宮支部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
波賀支部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千種支部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐用町	19	19	10	3	0	3	0	2	0	
佐用支所	4	4	3	0	0	0	0	1	0	
上月支所	10	10	3	2	0	3	0	1	0	
南光支所	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
三日月支所	4	4	3	1	0	0	0	0	0	
但馬地域	254	237	173	24	10	5	6	14	0	
豊岡市	116	114	93	9	3	2	2	4	0	
豊岡地区セン	19	19	13	1	2	0	2	1	0	
城崎地区セン	3	2	1	1	0	0	0	0	0	
竹野地区セン	5	5	2	1	0	0	0	2	0	
日高地区セン	60	60	57	2	1	0	0	0	0	
出石地区セン	21	20	14	3	0	2	0	1	0	
但東地区セン	8	8	6	1	0	0	0	0	0	
養父市	48	44	24	8	2	0	1	5	0	
八鹿支部	18	16	7	5	0	0	1	2	0	
養父支部	10	8	5	1	0	0	0	1	0	
大屋支部	9	9	6	2	0	0	0	0	0	
関宮支部	11	11	6	0	2	0	0	2	0	
朝来市	64	55	39	4	3	3	2	4	0	
山東支所	20	14	10	2	0	2	0	0	0	
生野支所	6	5	3	0	0	0	1	1	0	
和田山支所	18	16	11	0	3	0	0	2	0	
朝来支所	20	20	15	2	0	1	1	1	0	
香美町	20	18	13	2	2	0	1	0	0	
香住支所	8	6	3	1	2	0	0	0	0	
村岡支所	9	9	7	1	0	0	1	0	0	
小代支所	3	3	3	0	0	0	0	0	0	
新温泉町	6	6	4	1	0	0	0	1	0	
浜坂支部	4	4	3	1	0	0	0	0	0	
温泉支部	2	2	1	0	0	0	0	1	0	
丹波地域	225	215	138	29	7	6	8	17	0	
篠山市	37	34	23	3	3	1	1	2	0	
丹波市	188	181	115	26	4	5	7	15	0	
本所	5	5	3	0	0	1	0	1	0	
柏原支所	18	18	13	1	0	1	0	2	0	
氷上支所	34	33	23	7	1	0	0	0	0	
青垣支所	52	51	21	15	1	0	5	9	0	
春日支所	35	30	18	3	1	2	0	3	0	
山南支所	23	23	17	0	1	1	2	0	0	
市島支所	21	21	20	0	0	0	0	0	0	
淡路地域	209	204	127	25	11	13	6	13	2	
洲本市	80	79	52	7	4	3	4	6	1	
洲本支部	49	49	29	5	2	1	3	6	1	
五色支部	31	30	23	2	2	2	1	0	0	
淡路市	76	74	52	5	3	6	1	3	1	
津名支部	40	40	30	2	0	4	1	1	0	
岩屋支部	4	4	2	0	0	1	0	1	0	
北淡支部	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
一宮支部	19	18	14	2	1	0	0	0	0	
東浦支部	12	11	6	1	2	1	0	1	0	
南あわじ市	53	51	23	13	4	4	1	4	0	
みどり支部	8	8	6	1	0	0	1	0	0	
せいだん支部	19	19	10	4	1	3	0	1	0	
みはら支部	11	11	3	3	1	1	0	2	0	
なんたん支部	15	13	4	5	2	0	0	1	0	
合計	3,312	3,107	1,923	289	202	76	132	333	16	

平成 19年度ひょうごボランティア基金助成事業報告書

平成20年12月発行

編集・発行：ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-1-3

神戸クリスタルタワー 6階

TEL：078-360-8845

FAX：078-360-8848

URL：<http://www.hyogo-vplaza.jp/>